

第四章 資料編

ボランティア

C · O · N · T · E · N · T · S

ボランティア関係資料

ボランティア名簿 218

ボランティア登録名簿 219

獣医師ボランティアの方へ 220

外出宿泊届 221

獣医師ボランティアへの案内

（「被災動物の避難について」依頼文書） 222

1日の作業等スケジュール 223

ボランティアへのアンケート調査

（兵庫県南部地震動物救援本部） 225

ボランティア関係資料

一般 (黄)	学生獣医 (緑)	獣医師 (赤)
--------	----------	---------

活動開始時刻を記入してください

ボランティア名簿 (一般、学生獣医、獣医師会) No.

氏名： _____ 才 男、女 連絡先電話番号 _____
現住所： _____
職業 (学校名、勤務先、配属元)： _____

電話受付日 月 日

ボランティア活動に協力していただける方法に○をつけ、数字も御記入下さい。

回数	期間	期限
曜日 _____	() 日	今回 月 日から
() 週 H _____	() 週	月 日まで
() 毎日	() カ月	今後 月 日から
() 泊まり込み 時間帯 _____	~	月 日まで

泊

(赤) 連日

(緑) 時々

(黄) まれ
・
1回のみ
(茶)

当救護センターに於けるボランティア協力記録 (予定、経歴)

月 日 から	月 日 (散歩ほか、半日、泊まり)
月 日 から	月 日 (散歩ほか、半日、泊まり)
月 日 から	月 日 (散歩ほか、半日、泊まり)
月 日 から	月 日 (散歩ほか、半日、泊まり)
月 日 から	月 日 (散歩ほか、半日、泊まり)
月 日 から	月 日 (散歩ほか、半日、泊まり)
月 日 から	月 日 (散歩ほか、半日、泊まり)

リピーター
(青)

活動区分

- 散歩、犬舎周辺業務、犬舎内管理、ボランティアチーフ、トリマー、A R T 診療補助
- 獣医学生、動物診療

活動終了後記入

ボランティア登録名簿

氏名	() 才) 男・女 職業		
住所	〒 () 都府県 () 市区郡 () 町 () 番		
勤務先	名称	電話 ()	内線
	住所	〒 () 都府県 () 市区郡 () 町	

動物飼育歴

期間 (年数)	動物の種類
年 月～ 年 月 (年 カ月)	
年 月～ 年 月 (年 カ月)	
年 月～ 年 月 (年 カ月)	
年 月～ 年 月 (年 カ月)	

ボランティア予定

回数	期 間	持込可能物	(返還の要否)
1	年 月 日～ 年 月 日		(要・否)
2	年 月 日～ 年 月 日		(要・否)
3	年 月 日～ 年 月 日		(要・否)
4	年 月 日～ 年 月 日		(要・否)
5	年 月 日～ 年 月 日		(要・否)

動物関係ボランティア経験

年 月	場 所	内 容
年 月		
年 月		
年 月		
年 月		

特記事項	
------	--

獣医師ボランティアの方へ

- ※ ボランティア参加時間及び帰宅時間は個人の都合のよい時に。
- ※ 犬舎、猫舎は担当者以外立入禁止（伝染病予防のため）
- ※ 動物と接するときは、無理をしない、また、不用意に近づかない。

はじめに

御多忙の中、当施設への御協力誠に有り難うございます。

動物は犬猫が主で、迷子の他、一時預かりも居ります。逃亡にはくれぐれも御注意下さい。

当施設は神戸市獣医師会と神戸市との協力の下、神戸市動物管理センター敷地内に設置しており、1月からはビニールハウス、5月よりこのプレハブ舎で被災犬猫達を保護して参りました。動物の入舎の際には、被災者の飼育動物である事を確認するなどの審査を行っています。

このセンター内での診察は施設内保護動物の救済、健康維持のための獣医療であり、この施設近隣の市民に対して無料診療を行うものではありません。

また、施設内では疾病の蔓延を防ぐため消毒、汚染に対して特に留意しております。

各先生方にも、ご協力頂きますよう、お願いいたします。

お手伝いして戴きたい業務

1. 初診ならびに継続治療、検査など
2. 午前10時から、約2時間かけて動物舎の給餌清掃を行います。動物舎内でボランティア達の活動に御協力を頂きながら、各動物の健康状態の観察をお願いいたします。
動物に不調がある場合、ボランティアから依頼がありますので相談に応じて頂き、応急手当が必要な場合は、適宜治療ならびに記録をお願い致します。内容については午後1時以降の診察の際に御知らせ下さい。現場に詳しい獣医師は午後から参加します。
緊急に獣医師の手が必要な場合は、専属ボランティアにお申し出下さい。担当獣医師に連絡が入り次第、対応いたします。
3. 午後12時から1時まで昼食休憩
4. 午後1時30分から当番の神戸市獣医師会獣医師と共に傷病動物の診察、継続治療など
継続治療については、市田救護センター所長、佐々木獣医師にお尋ね下さい。
日帰りでご参加の先生方には、午後4時頃に終了して頂いて結構です。
5. 宿泊される獣医師は、専属ボランティアに宿泊その他の施設について説明をお受け下さい。
また夜間でも、必要とあれば治療および診察を御願ひします。
6. 里親、新規預かりの対応については、混乱を避けるためなるべく神戸市獣医師会か、福祉協会、専属ボランティアにお任せ下さい。
7. 治療内容はカルテに記載し、翌日に引き継げるように願ひます。

そのほかの留意点

1. 各ボランティア獣医師は、互いに協力し合って良い成果が上がるようにご尽力いただけますことをお願いいたします。
2. 一般ボランティアの活動に適當でない行動が有れば、ボランティアの主旨に沿うように適宜ご指導戴けると幸いです。
3. 当施設は保安上の観点から、門限が5時30分ですので、それ以後の当施設の出入りはご遠慮下さい。消灯は12時です。
4. 緊急連絡をとりたい方は、事務所までご連絡下さい。 夜間は、動物管理センターの前にある「緑の公衆電話」を御利用下さい。

そのほかのお願い

1. けがをされた場合は、迷惑なさらずに、必ず事務所受付まで申し出て下さい。
2. 動物は犬猫が主ですが、迷子の他、一時預かりも居りますので逃亡にはくれぐれも御注意下さい。
扉や窓の開閉の際、逃げている動物が居ないか、戸締まりが出来ているかご確認下さい。
3. Tシャツやシールなどの支援グッズも用意しております。義援金を兼ねてお買い求め頂けますと幸いです。

外出宿泊届

三田 動物救護センター所長殿 No. _____
神戸

届出者氏名 _____ 所属団体又は派遣者名 _____

外出及び宿泊日

____月 ____日 午前・午後 ____時 ____分 ~ ____月 ____日 午前・午後 ____時 ____分

行き先場所 _____ 連絡先電話 _____ (_____)

同行者氏名 _____

受付年月日 ____年 ____月 ____日 受付者氏名 _____ ㊟

兵震動発第 号

平成7年3月29日

社兵庫県獣医師会会長殿

社神戸市獣医師会会長殿

兵庫県南部地震動物救援本部

本部長 鷺尾 勝彦

被災動物の避妊について (依頼)

被災動物の救護活動については平素から格別のご協力とご支援をいただき厚くお礼申し上げます。おかげをもちまして震災から後3月29日現在で774頭の被災動物を救護し、新たな飼い主を見つける等の事業を展開したところ内410頭の動物が新たな飼い主に引き取られる等救済事業も着実な効果が上がり、多くの県民方から感謝の声が寄せられています。

さて、対策本部ではこの度、三田動物救護センター並びに神戸動物救護センターで収容保管している動物の適正な管理と動物の精神的安定を図り、また、里親として新たな飼い主のもとで不幸な子供を生ませない事目的を持って今後、各救護センターで保護している動物の避妊、去勢手術を下記により行うこととしました。

この避妊、去勢手術の事業は被災動物の救護と動物愛護の観点から実施しようとするものであり、手術に要する経費の負担は被災動物の救護に寄せられた寄附金と社日本動物福祉協会の資金援助を得て実施しようとするものです。

つきましては、事業実施にあたっては事業の趣旨をご理解いただき社兵庫県獣医師会、社神戸市獣医師会会長諸氏の格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 対象

三田並びに神戸の動物救護センターで保護され、所有権が放棄された犬、猫とする。

2 手術実施者

三田動物救護センターの動物は社兵庫県獣医師会が担当し、神戸動物救護センターの動物は社神戸市獣医師会が担当する。

3 手術経費

雌犬20,000円、雄犬15,000円、雌ねこ15,000円、雄ねこ10,000円とし経費は動物救援本部と社動物福祉協会が折半し支払う事とする。

1 1日の作業等スケジュール

7:30	起床
8:00	朝食・ミーティング
9:00	作業開始 ○ボランティア名簿記入 ○犬の散歩等 ○犬舎・猫舎等清掃・消毒
12:00	昼食 ○作業
15:00	○犬をケージに戻す ○犬・猫等の食事 ○犬の散歩等
19:00	夕食
20:00	ミーティング
21:00	消灯

時刻	作業等内容	注意事項等
7:30	起床	
8:00	朝食準備、センター内清掃 犬舎・猫舎の毛布あげ	全員で協力しましょう。 犬舎・猫舎入室時は、 <u>長靴に履き替えて、消毒槽に入る</u> こと（伝染病予防のため）
9:00	朝食・ミーティング（散歩コース下見） センター内作業開始 1 犬の散歩（散歩時には、糞便袋を2～3枚持ち、 <u>糞便及び尿のチェック</u> をし、 <u>結果を必ず犬舎担当のボランティアの方に伝えてください。</u> 散歩後は、犬を外に繋ぎ、水を与えること。（繋ぎ場所での糞便チェック等も忘れず） 2 犬舎・猫舎の清掃・消毒 ① 犬舎・猫舎の窓を開け、空気の入れ換えを ② ケージ内の餌の食べ残し量（猫の夕食分）、糞便や尿の状態等をチェックし、「健康チェック表」に記入⇒異常がある場合、犬舎・猫舎担当ボランティアは獣医師に連絡	糞便のチェックとは⇒正常or軟便or下痢便or血便等 尿のチェックとは⇒色等を見る（黄色or茶色or赤色等） 猫舎は金網の付いている窓のみ開ける（猫の脱出予防） 食べ残し量のチェックとは⇒「全部食べた」or「半分以上残した」

時刻	作業等内容	注意事項等
12:00	③ 食器類、ケージ底板、ケージトレイ、猫砂用器の洗浄・消毒 ④ 犬・猫の食事 昼食・休憩	洗浄・消毒は犬舎・猫舎外で行う。(地面に消毒液の水溜まりを作らないよう→動物が舐める) 作業のキリがよいところで、順次食事を取ってください。
13:00	作業開始 1 清掃・消毒の続き等 2 各動物の餌の食べ残し量等のチェックをし、「健康チェック表」に記入(犬・猫等の朝食分) 3 食器の回収、洗浄・消毒	
15:00	犬の散歩等開始 1 散歩時の注意事項等は、午前中と同じ。 2 散歩から帰ったら、犬舎内に入れ食事と水を与える。 3 食器等を回収し、犬は各ケージに入れる。その際、各犬の餌の食残し量等をチェックし、「健康チェック表」に記入(犬の夕食分) 4 ケージ内には、水を入れた食器を入れておく。 5 犬の係留場所の清掃等(こぼれたフード等を清掃)	
17:00	1 休憩 2 犬舎及び猫舎の各ケージに、毛布をかける。	
19:00	夕食	片付けはみんなです。
20:00	ボランティア・ミーティング (反省会・意見交換等の場所です)	自由参加ですが、可能な限り参加してください。
0:00	消灯(消灯前に、外の水道は凍結防止のため、水を出し、給湯器は水抜き)	

ボランティアに対するアンケート

●目次

アンケート調査表	226
調査の結果(グラフ)	231
調査の結果(コメント集)	241
ボランティア活動についての意見	257

兵庫県南部地震動物救援本部

No.		
氏名		職業
	<input type="checkbox"/> 男	年齢
	<input type="checkbox"/> 女	才

*動物関係の職業・学生の方は、下の詳細をご記入下さい

- (1) 獣医師 動物病院開業(勤務医 名) 動物病院勤務 企業職員 公務員 その他()
- (2) 学生(年生) 獣医学 AHT トリマー 訓練士 畜産 自然科学 人文科学
その他()

*動物関係の資格を有する方 AHT トリマー 訓練士 動物飼養管理士 その他()

I-① 今回のボランティア活動への参加時期・場所

- 月 日から 月 日まで 通い 宿泊 三田 神戸
 月 日から 月 日まで 通い 宿泊 三田 神戸
 *回数の多い方は、回数・日数・場所をご記入下さい
 ()

I-② ボランティア募集を、いつ、どのような方法で知りましたか

- 募集を知った時期 (月 日または、 頃)
新聞 TV ラジオ 雑誌() 学校 日本獣医師会
地方獣医師会 愛護団体 動物病院 知人 現地本部からの依頼
その他(具体的に)

I-③ 参加の申し込み方法は

- 現地救護センター (社) 日本獣医師会 地方獣医師会 (社) 日本動物福祉協会
学校 兵庫県南部地震東京本部 ((財) 日本動物愛護協会)
ボランティア(動物関係者対象)受付相談窓口(東京都/杉本獣医)
その他(具体的に ;)

I-④ ボランティアへの参加方法と、交通費の負担について

- 自主参加 要請されて参加
 ↓発信元について
日本獣医師会 地方獣医師会(具体的に ;)
学校(具体的に ;) その他()
- 交通費の負担について
全額自費 一部援助 全額援助

- I-⑤ 申し込み後、スムーズに活動に参加できましたか
連絡後すぐ現地に入った 待った 連絡がスムーズにできなかった
その他（具体的に； _____）
- I-⑥ これまでにボランティア活動への参加経験はありますか
有（具体的に； _____）
無
- I-⑦ 今回の震災に関わる、他のボランティア活動へ参加しましたか
有（具体的に； _____）
無
- I-⑧ 現在、自分で動物を飼っていますか
いる……………犬（ _____ ）頭 猫（ _____ ）頭
その他（具体的に； _____）
いない
- I-⑨ 過去、動物を飼ったことがありますか
ある……………犬 猫 その他
ない……………飼いたくなかった 飼えない環境だった
- I-⑩ 動物救護のボランティアを選んだ理由は何ですか（複数可）
動物が好きだから 動物が可愛そうだから 職業上
参加しやすかった 誘われて 選ぶべきボランティアが他になかった 動物も
 人と同様に救護されるべきだと思った
その他（ _____ ）
- I-⑪ 現地への主な交通手段は
飛行機 鉄道 バス 車 単車 自転車 徒歩
- II-① ボランティア活動中の、主な作業は何ですか（複数回答可）
犬の飼育・管理 犬の散歩 猫の飼育・管理 治療・看護
運搬作業 施設の造営 事務作業 ボランティアの食事関連
その他（具体的に； _____）
- II-② 上記の作業は、支障なく円滑に進められましたか。もし、問題があったとすると、それは
 どのような点ですか。改善案も含め、具体的にご記入下さい。
良い（どこが _____）

- 普通
悪い（どこが）
（改善案）

II-③ 現地へ到着後、スムーズに活動に加わることができましたか

- できた
できなかった（理由：）

II-④ 活動に参加した、他のボランティアとのコミュニケーションは十分にとれていましたか。
また、活動終了後も交流はありますか。

- 活動期間中のコミュニケーションは 十分 普通 不十分
（具体的に：）
活動終了後の交流は 有 無

II-⑤ 動物救護関係以外のボランティアとの交流はありましたか

- 有（具体的に：）
無

II-⑥ 現地での作業時間以外は、どのようにして過ごしていましたか

- （）

III-① 今回のボランティア活動期間中、一番うれしかったことは

- （）

III-② 今回のボランティア活動期間中、一番悲しかったことは

- （）

III-③ 今回のボランティア活動期間中、一番困ったことは

- （）

III-④ 今回のボランティア活動期間中、一番気になったことは

- （）

III-⑤ 今回のボランティア活動期間中、自分の意見を述べる機会がありましたか

- （）

III-⑥ 救護施設の設け場所に関して、何かご意見はありますか

- （）

Ⅲ-⑦ 今回のボランティアの組織・運営について、気づいたこと、提案などがあればご記入下さい。

()

Ⅲ-⑧ あなた自身にとって、今回のボランティア活動に参加したことを、どのように評価していますか。

有意義だった (理由; 社会勉強になった ボランティアの意義を認識した

動物のことを学べた その他 ()

有意義とは思わなかった (理由; ()

その他 ()

Ⅲ-⑨ これを機に、今後何らかのボランティア活動に参加したいと思いますか

思う (具体的にあれば; ()

思わない

Ⅲ-⑩ 今回のような、災害時における動物救護活動の開始時期について

人間の救護活動を優先した方がよい

人も動物も同時に開始した方がよい

その他 ()

Ⅲ-⑪ 今回のボランティアへ参加後、地元に戻られてから、動物への接し方は変わりましたか

変わった (具体的に; ()

変わらない

Ⅲ-⑫ (通いで活動された方のみご回答下さい)

(1) 現地でボランティア活動を続けようと思われた理由を詳しくお聞かせ下さい

()

(2) 活動を途中で辞められた理由を詳しくお聞かせ下さい

()

Ⅲ-⑬ (宿泊された方で、複数回にわたって参加された方のみご回答下さい)

複数回にわたって、現地で活動された動機・理由を詳しくお聞かせ下さい

()

Ⅲ-⑭ (複数回にわたって活動された方のみご回答下さい)

現地における活動について、経日的変化を感じられた方は、具体的にお聞かせ下さい

()

Ⅲ-⑯ ボランティア募集・受付窓口として、どこが適切とお考えですか（複数可）

（1）情報源

新聞 TV ラジオ 雑誌（ ） 学校 日本獣医師会 地方獣医師会
愛護団体 動物病院 知人 現地本部からの依頼
その他（具体的に ）

（2）受付窓口

現地救護センター （社）日本獣医師会 地方獣医師会 （社）日本動物福祉協会
学校 兵庫県南部地震東京本部（（財）日本動物愛護協会）
ボランティア（動物関係者対象）受付相談窓口（東京都／杉本獣医）
ボランティア任意団体 その他（具体的に； ）

Ⅳ-① 今後、同じようなことが起これば、活動に参加しますか

参加する 参加しない

Ⅳ-② ボランティアの登録制があれば、それに応じますか

応じる 応じない

Ⅳ-③ 活動によってつくられたネットワークを利用して、何かしたいことがありますか

ある（具体的に； ）

ない

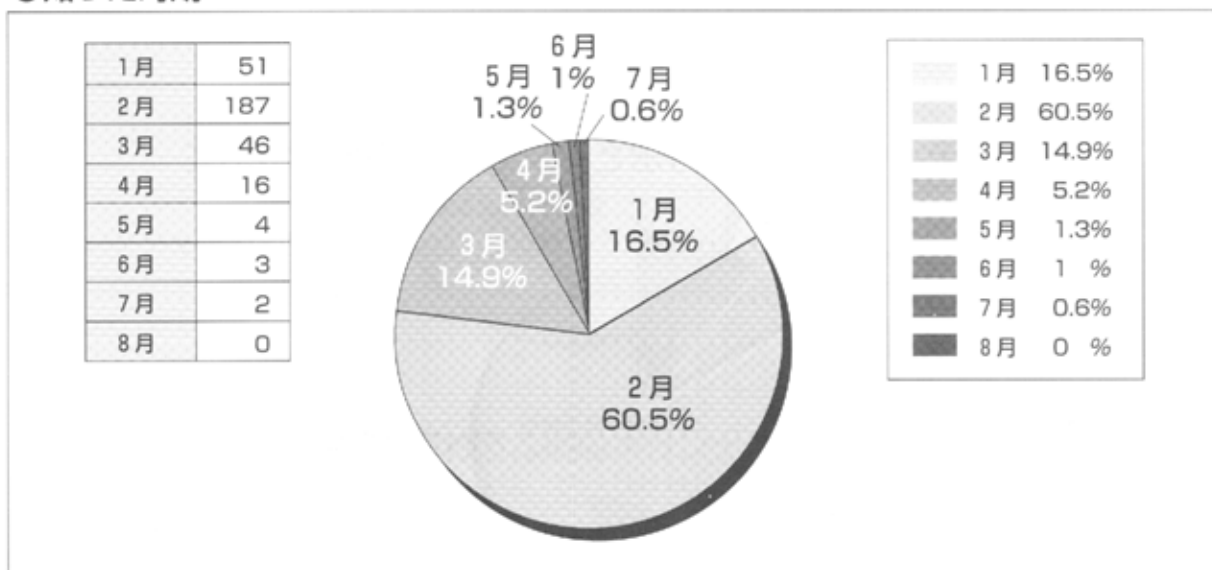
Ⅴ 今後のボランティア活動について、他にご意見ご希望があればご記入下さい。

I-① 今回のボランティア活動の参加場所

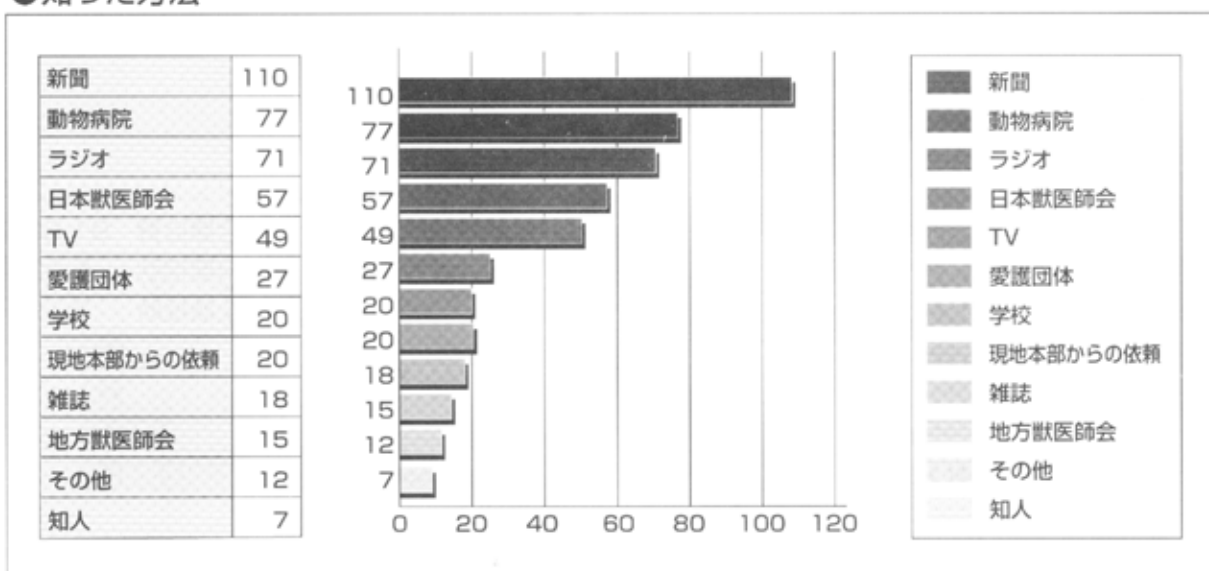
	宿泊	通い	不明	合計
神戸	133	84	13	230
三田	92	65	14	171
不明	27	32	12	71
合計	252	181	39	472

I-② ボランティア募集を、いつどのような方法で知りましたか

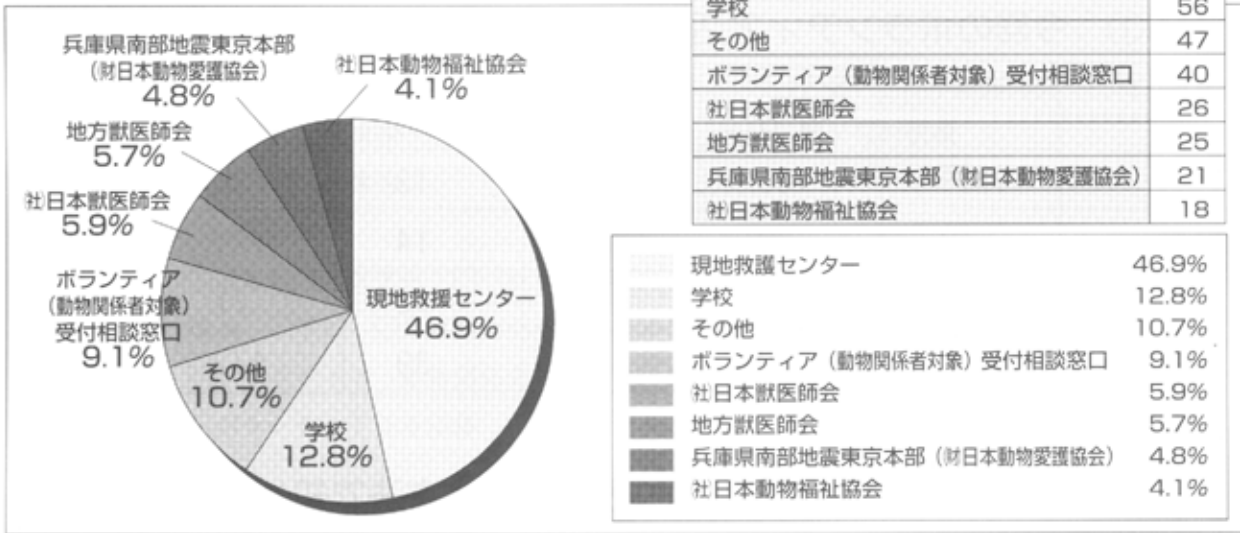
●知った時期



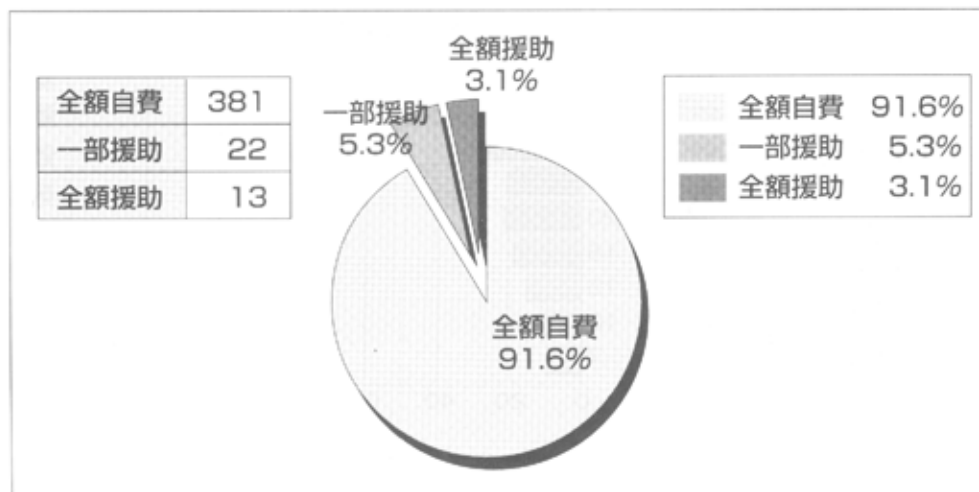
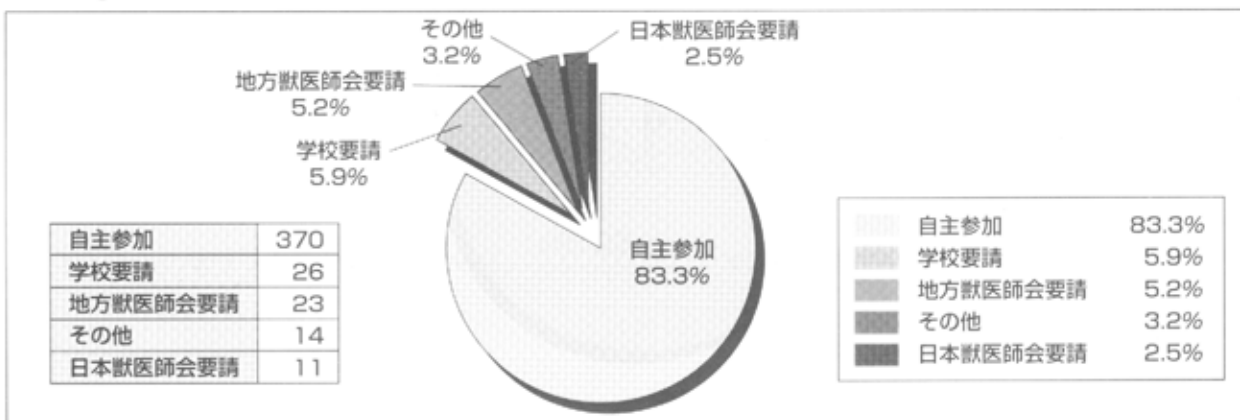
●知った方法



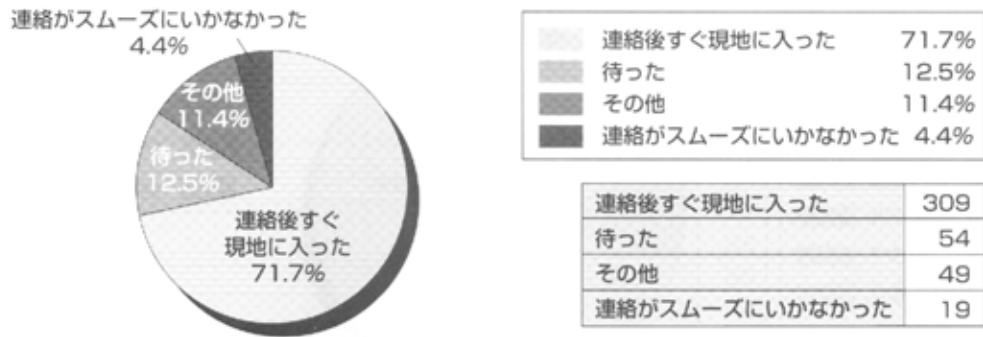
I-③ 参加の申し込み方法



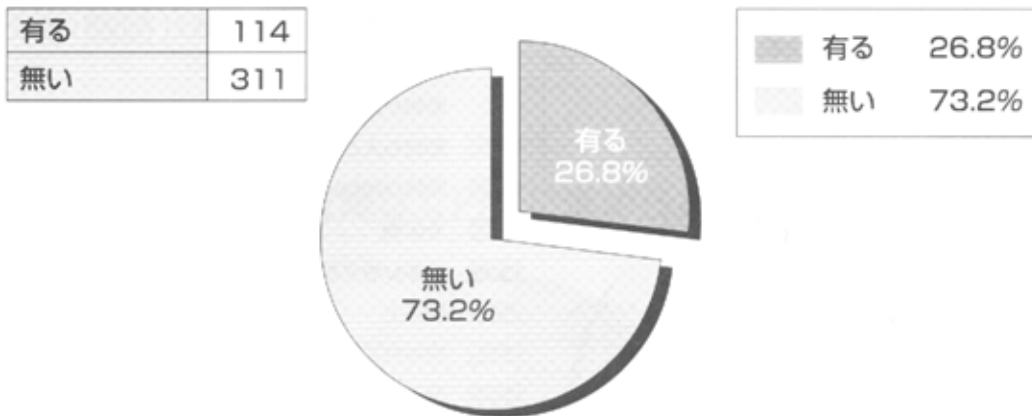
I-④ ボランティアへの参加方法と、交通費の負担について



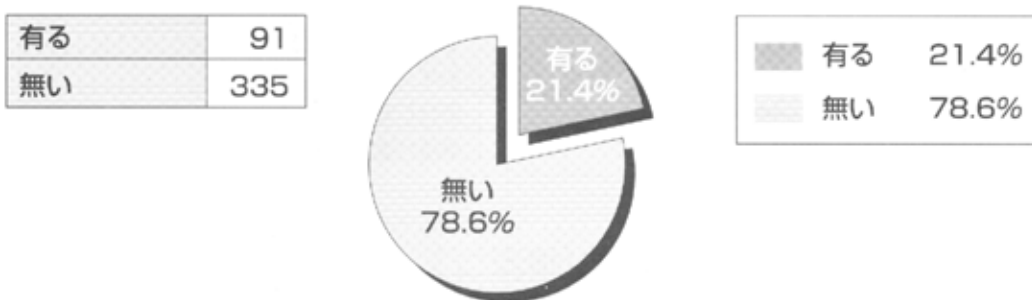
I-⑤ 申し込み後、スムーズに活動に参加できましたか



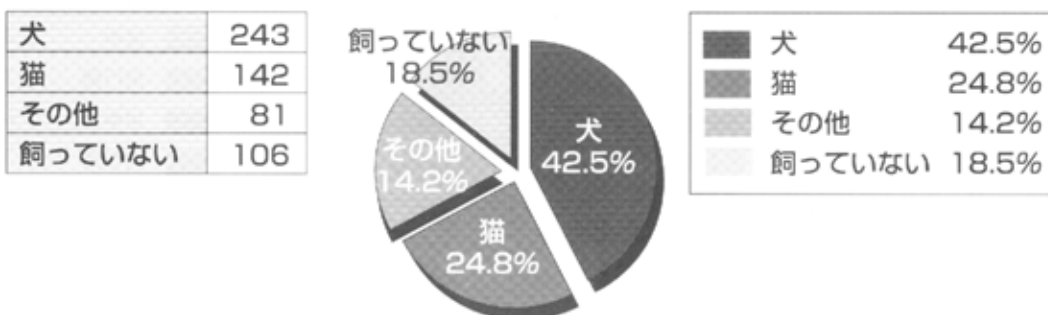
I-⑥ これまでにボランティア活動への参加経験はありますか



I-⑦ 今回の震災に関わる、他のボランティア活動へ参加しましたか

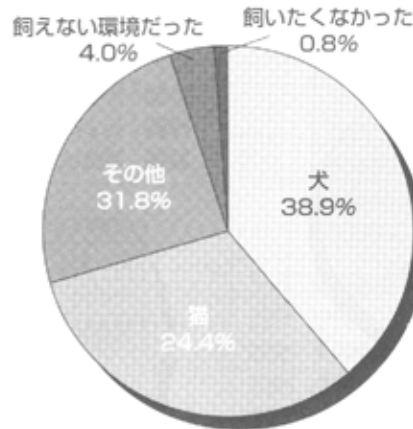


I-⑧ 現在、自分で動物を飼っていますか



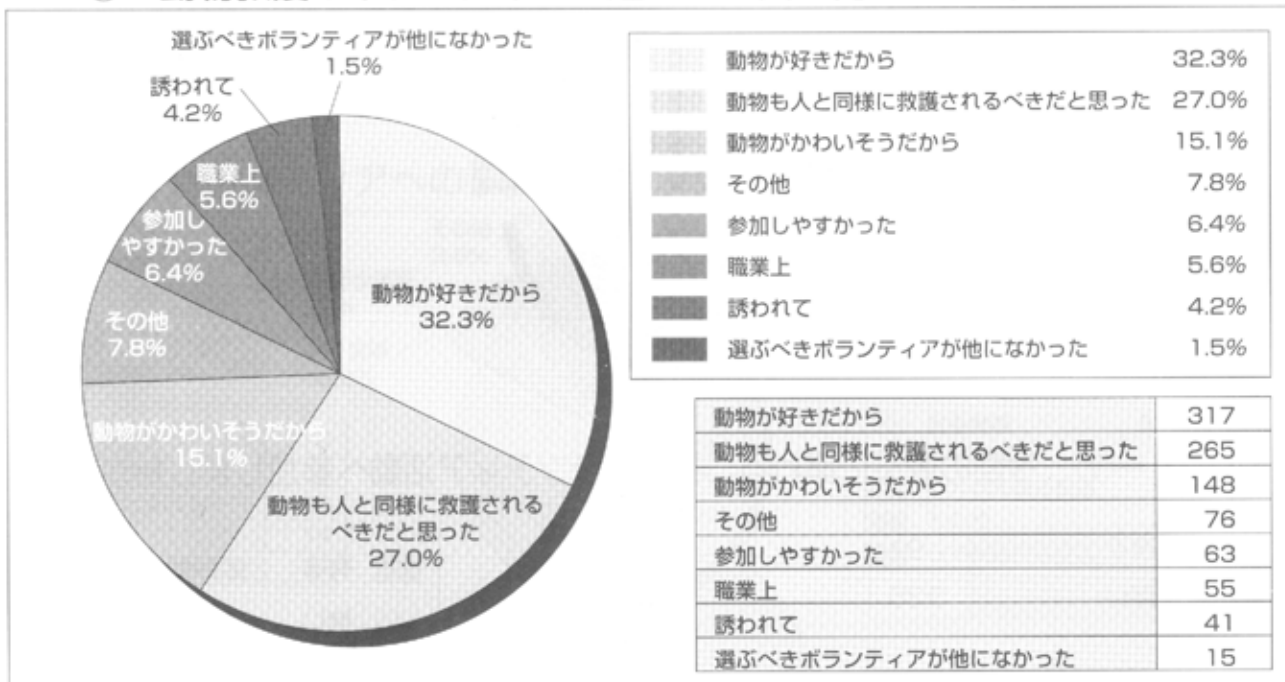
I-⑨ 過去、動物を飼ったことがありますか

犬	290
猫	182
その他	237
飼えない環境だった	30
飼いたくなかった	6



犬	38.9%
猫	24.4%
その他	31.8%
飼えない環境だった	4.0%
飼いたくなかった	0.8%

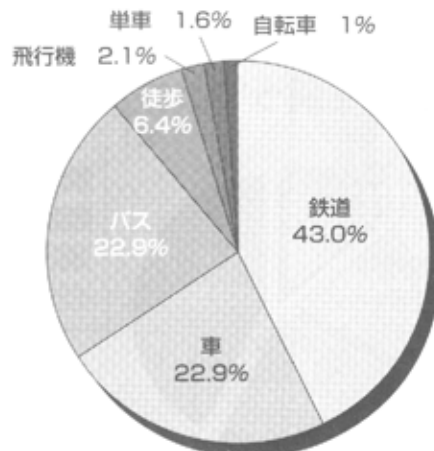
I-⑩ 動物救護のボランティアを選んだ理由は何ですか（複数可）



動物が好きだから	317
動物も人と同様に救護されるべきだと思った	265
動物がかawaiiそうだから	148
その他	76
参加しやすかった	63
職業上	55
誘われて	41
選ぶべきボランティアが他になかった	15

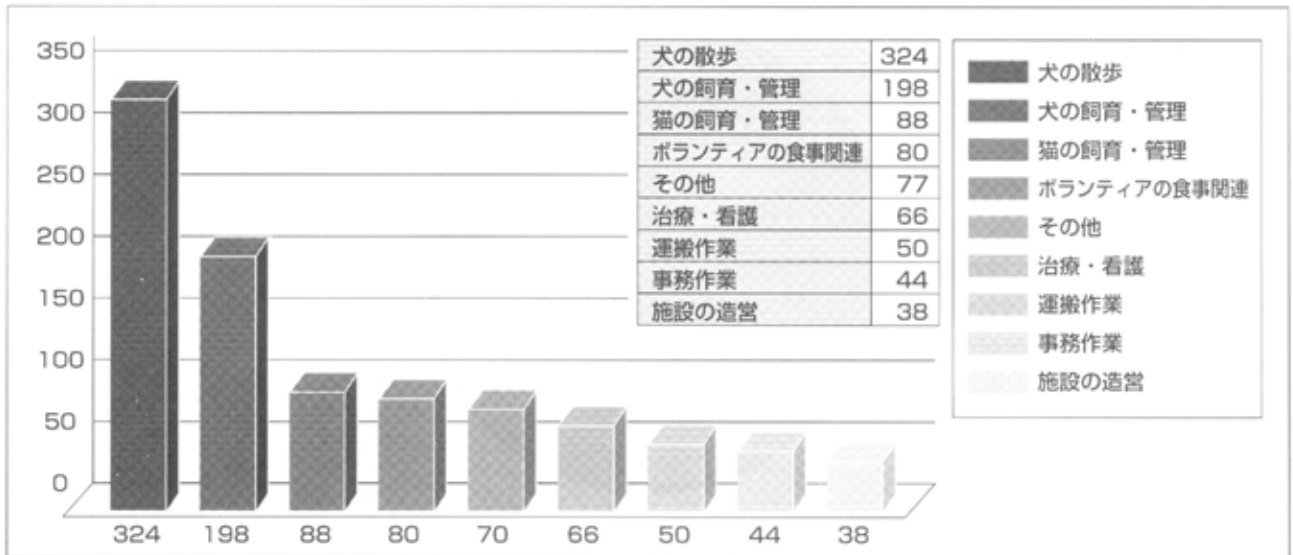
I-⑪ 現地への主な交通手段は

鉄道	263
車	140
バス	140
徒歩	39
飛行機	13
単車	10
自転車	6

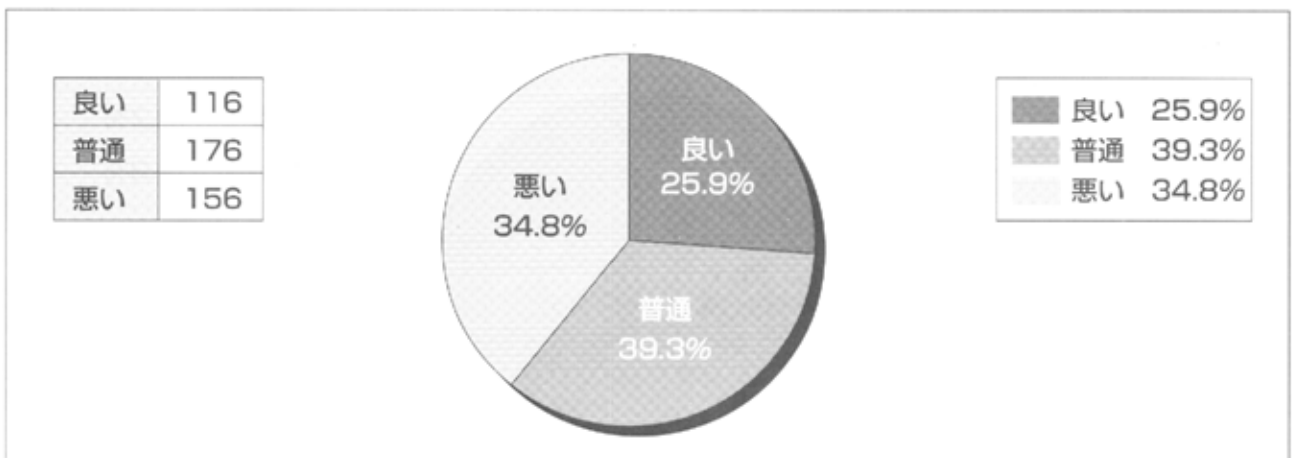


鉄道	43.0%
車	22.9%
バス	22.9%
徒歩	6.4%
飛行機	2.1%
単車	1.6%
自転車	1%

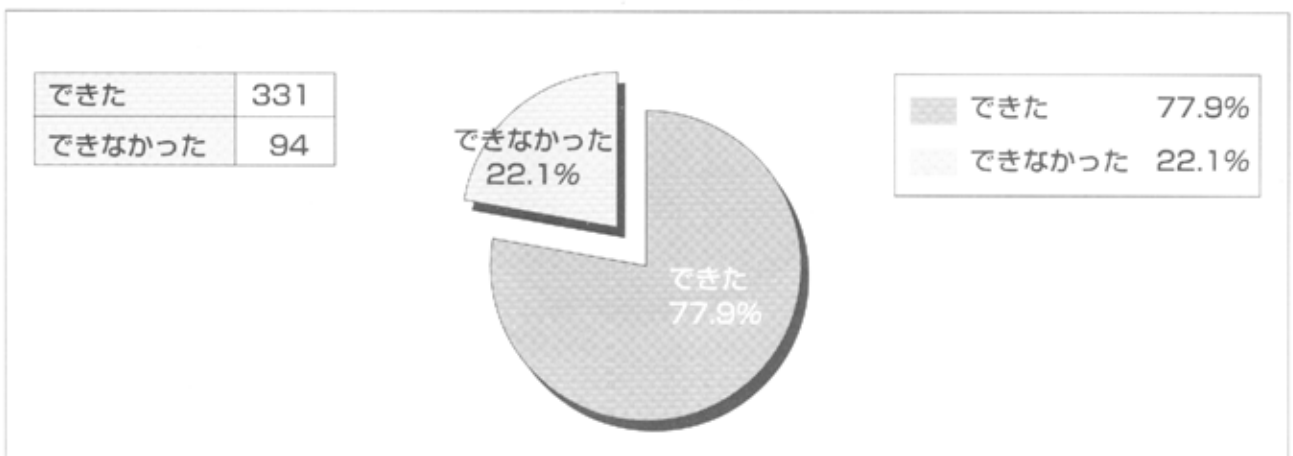
Ⅱ－① ボランティア活動中の、主な作業は何ですか（複数可）



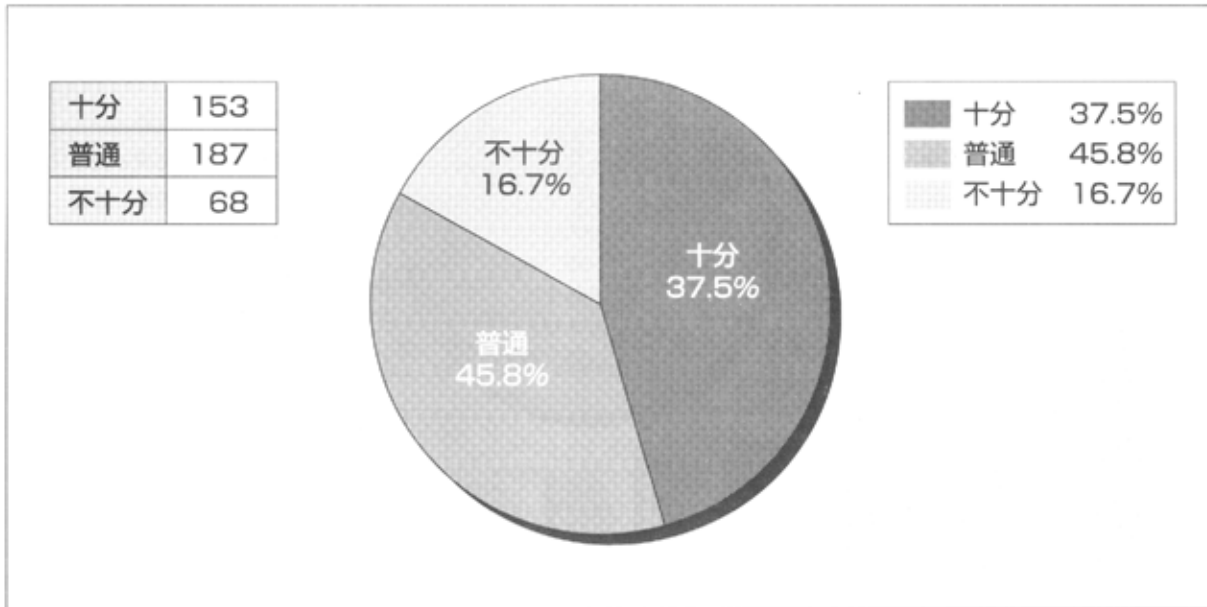
Ⅱ－② 上記の作業は、支障なく円滑に進められましたか



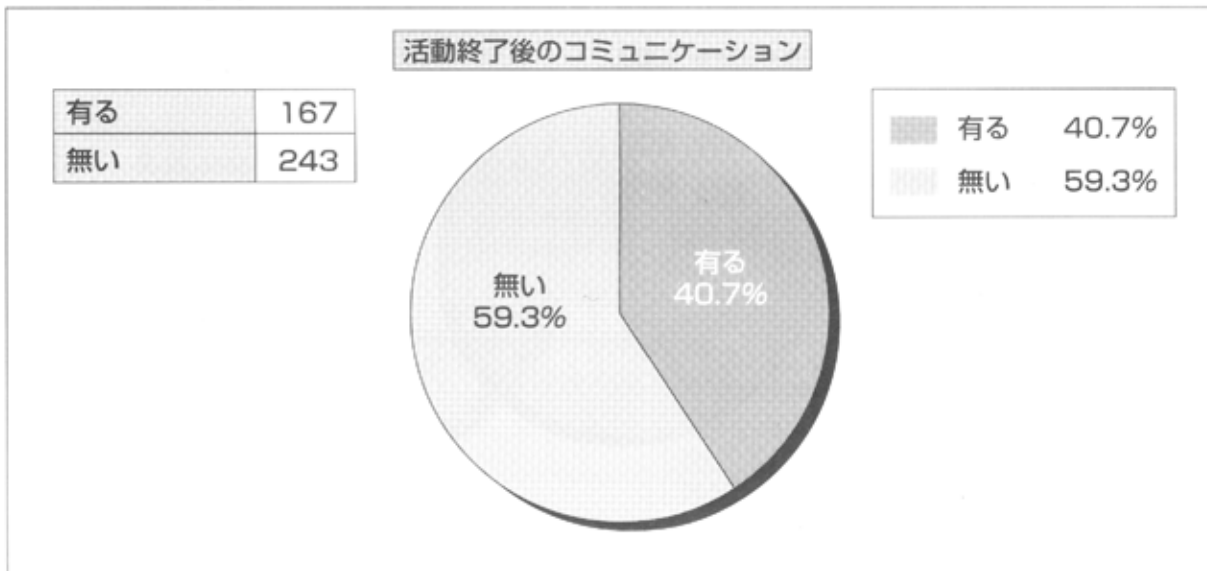
Ⅱ－③ 現地へ到着後、スムーズに活動に加わることができましたか



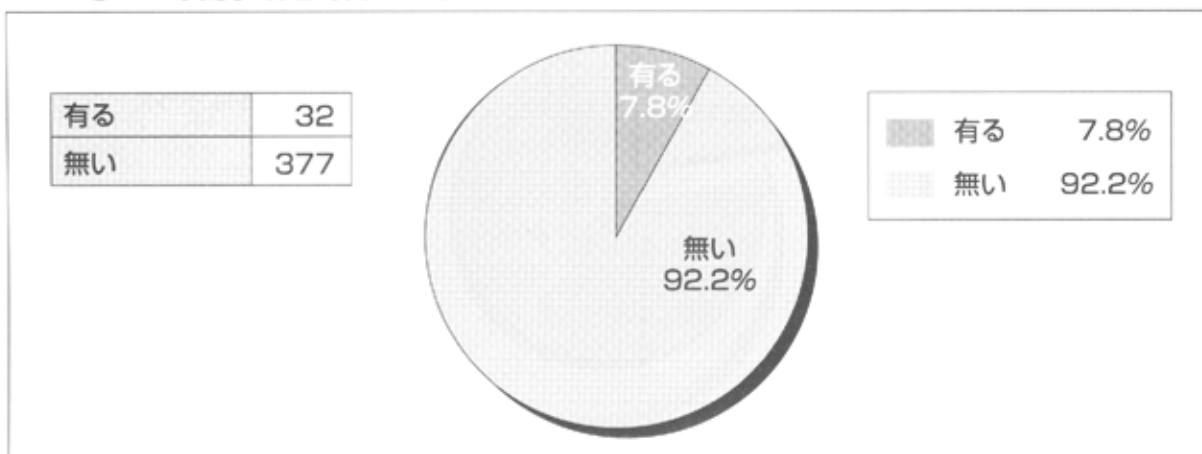
Ⅱ－④ 活動に参加した他のボランティアとのコミュニケーションは十分にとれていましたか



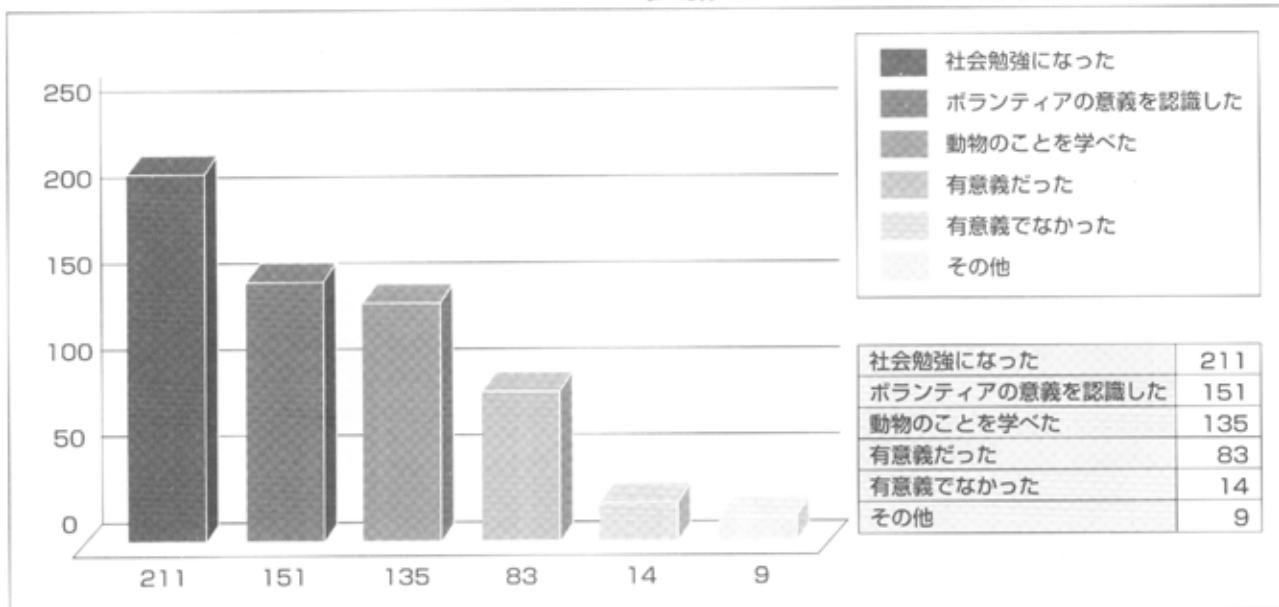
又、活動終了後も交流はありますか



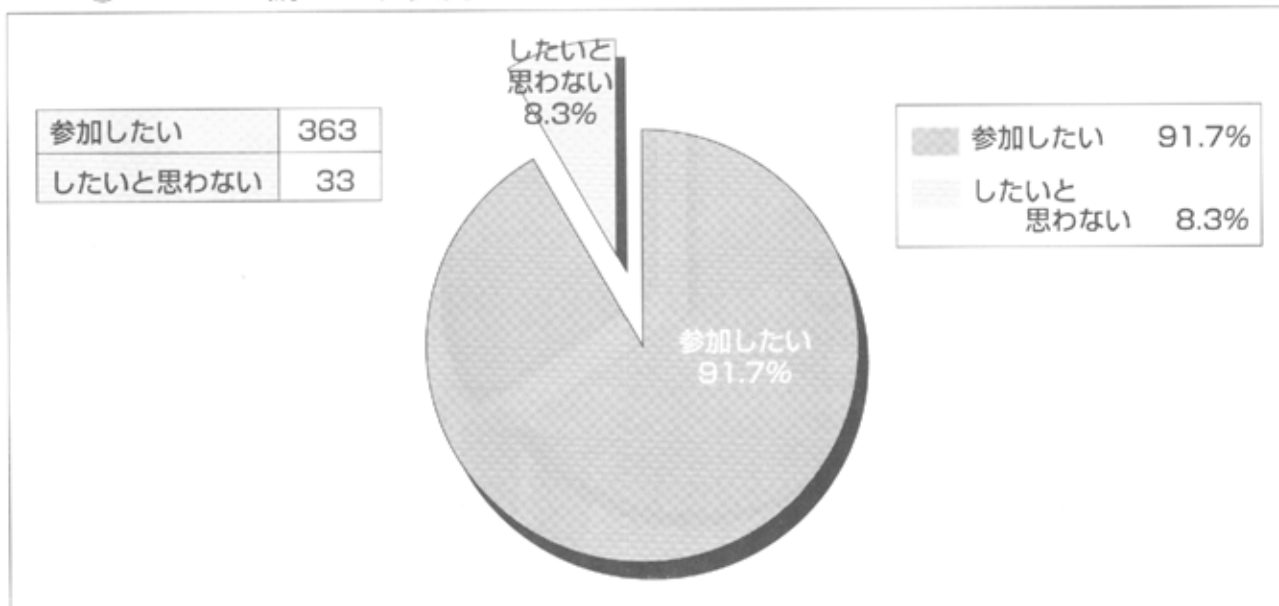
Ⅱ－⑤ 動物救護関係以外のボランティアとの交流はありましたか



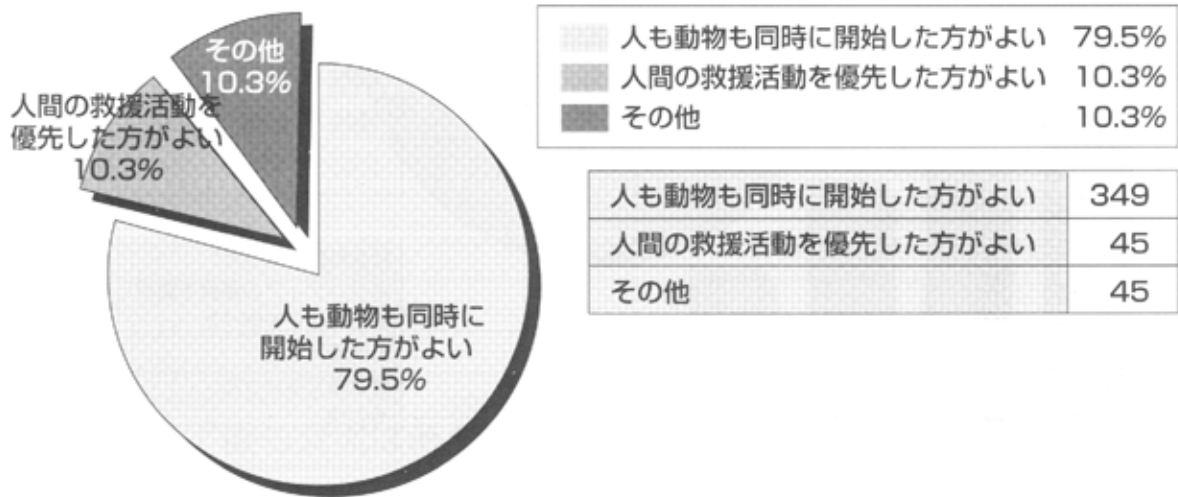
Ⅲ－⑧ あなた自身にとって、今回のボランティア活動に
参加したことをどう評価していますか



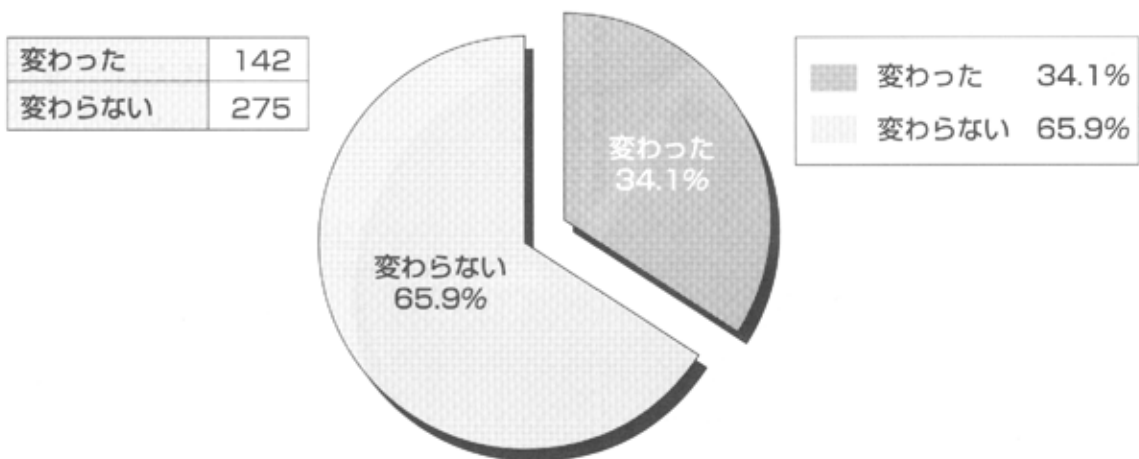
Ⅲ－⑨ これを機に、今後何らかのボランティア活動に参加したいと思えますか



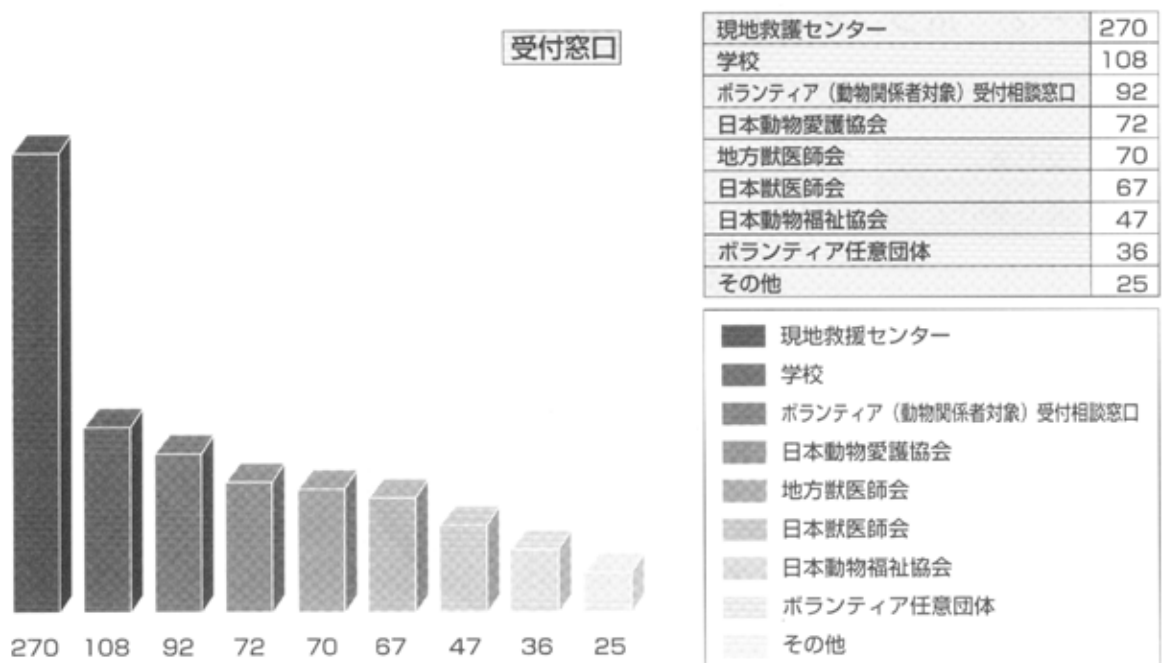
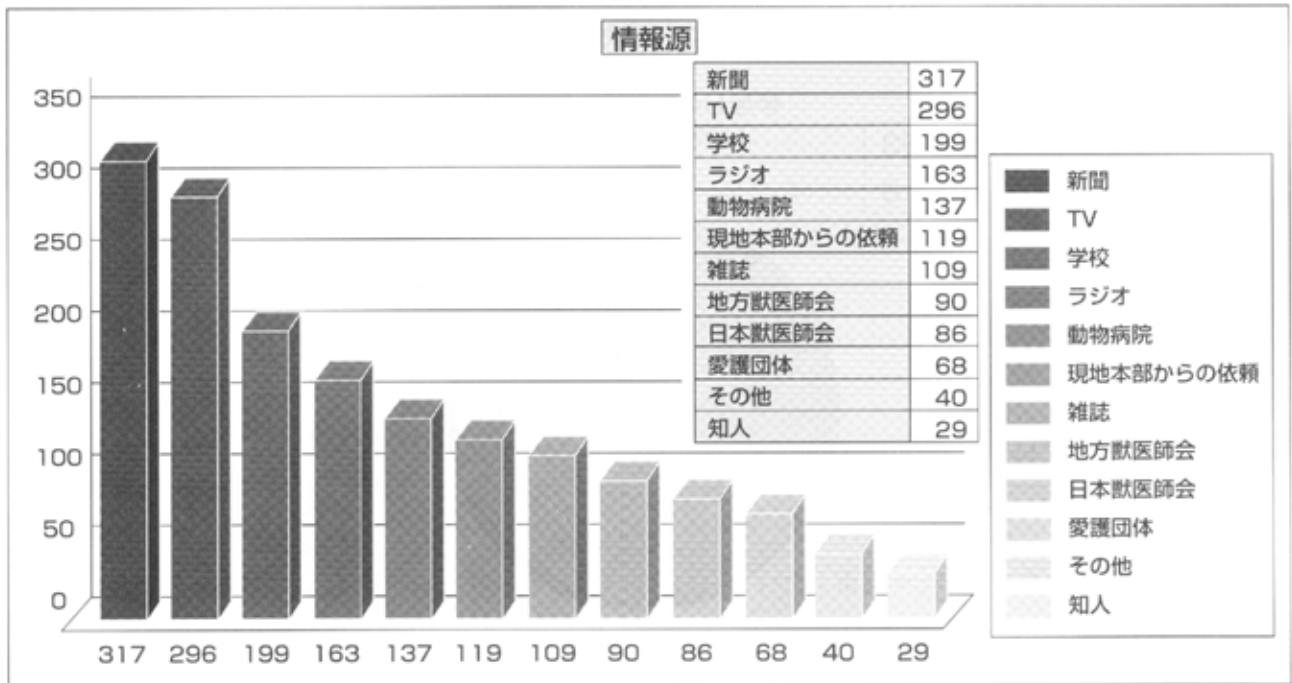
Ⅲ－⑩ 今回のような、災害時における動物救護活動の開始時期について



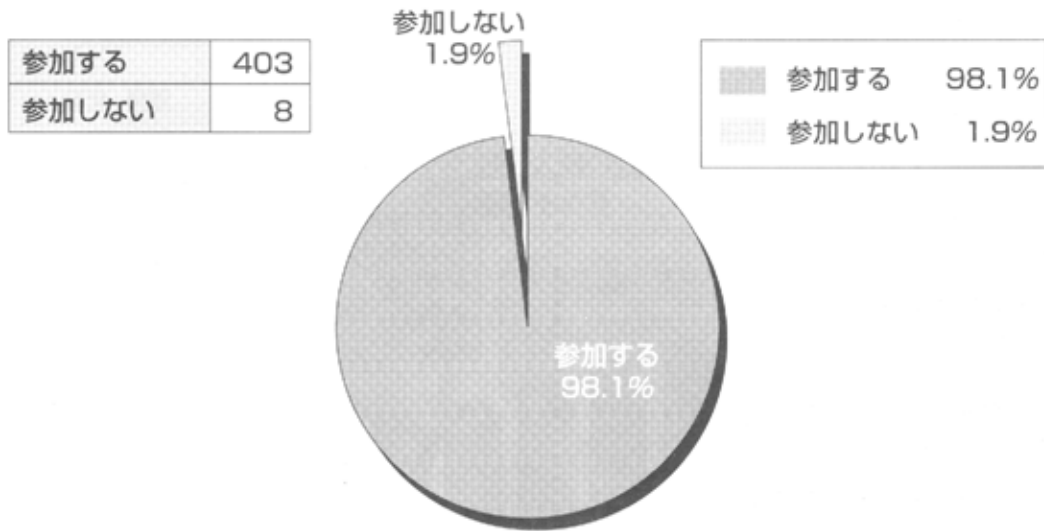
Ⅲ－⑪ 今回のボランティアへ参加後、
地元に戻られてから動物への接し方はかわりましたか



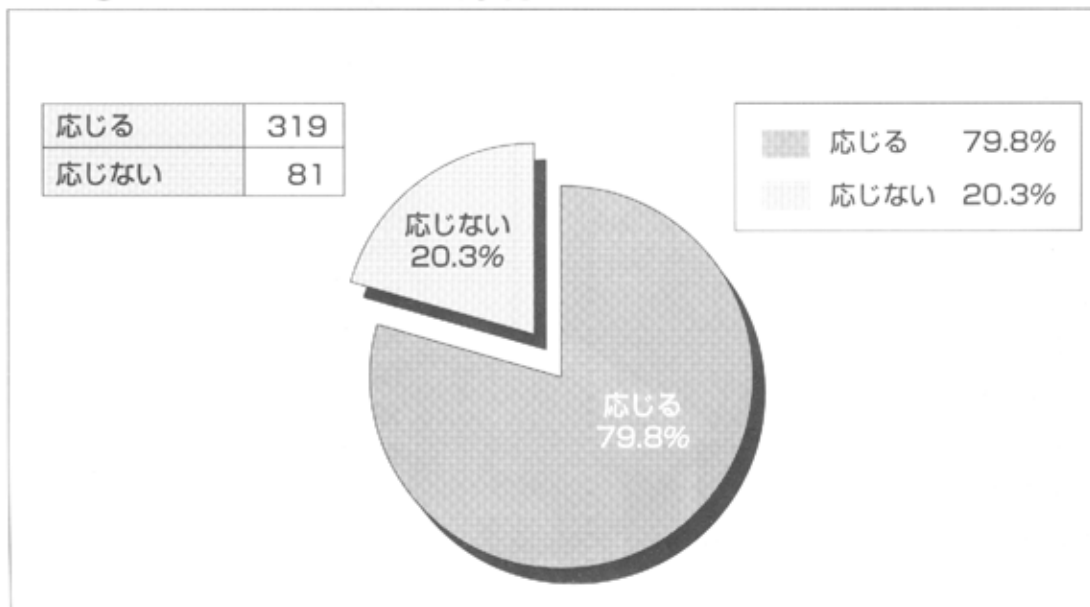
Ⅲ-⑮ ボランティア募集・受付窓口として、どこが適切とお考えですか



IV-① 今後、同じようなことが起これば、活動に参加しますか



IV-② ボランティアの登録制があれば、それに応じますか



動物救護ボランティアに対するアンケートから

質問項目	回答数
I-② ボランティア募集を、いつ、どのような方法で知りましたか(「その他」の回答)	
JKC本部	7
愛護動物協会、日本愛玩動物協会、愛のカエル	6
救援本部に物資を届けに行ったとき	4
協会より郵送にて	4
ジャパンアニマルレスキュー	2
犬の里親を申し込みにセンターに行ったとき	2
人と動物の関係学会	2
ペットフード業者から	2
市の雑誌	2
その他(各1)	
家族に聞いた・三田の広報・センター設立にあたっていた・市民ネットワークがんばろう神戸 ・市役所・川崎市獣医師会の馬場先生より・新聞・子供に知らされた・自分たちで独自にグルー プを結成、募金里親募集を行った・スーパーマーケット・テレビ・神戸市獣医師会・自分で聞 い合わせた・ピースボードのボランティア一般会議・現地の本部とのTEL連絡による・WRV ・会社全体で救出決定・大学・大学の先生を通じて・大阪駅で出会った人にたまたま聞いた・ 知人より・鳥根県小動物獣医師会より、会として参加・動物飼養管理士協会・動物病院・兵庫 県生活衛生課・保護した犬をセンターに連れていったとき・雑誌名(As・ワン・動物誌・猫の 手帳・「愛犬の友」のような雑誌)	
I-③ 参加申し込み方法は(「その他」の回答)	
直接現地へ	12
友人を通じて	7
愛玩動物協会を通じて	4
獣医師に連れていってもらった	3
知り合いの獣医師	2
学校から	2
その他(各1)	
知人が迎えに来た・2月中1回は直接出向く・直接妹と共に三田へ・申し込みはしないで当初 から頻繁に参加・自主的・市役所で聞いて・個人的関係で・TV・関西動物友の会・兵庫県動 物救援本部・母と一緒に・大阪社会福祉協会・神戸動物ボランティア・川西獣医師会・神戸市 動物管理センター・日本動物愛護協会・地方獣医師会・日本愛玩動物協会・動物臨床医学研究 所・ペット対策本部(078-362-5583)・新聞に載っていた方の自宅に電話した	
I-④ ボランティアへの参加方法と交通費の負担について	

参加要請のあった発信元

《地方獣医師会》

大阪市	3
姫路	2
大阪府	2
兵庫県	2
その他(各1)	
広島県・尼崎市・東播・横浜市・岡山県	

《学 校》

神戸ロイヤルグルーミング学院	3
岐阜大学	2
酪農学園大学	2
その他(各1)	

大阪動物看護学院・日本獣医畜産大学・日本大学・トリマー養成校・麻布大学・大阪府立大学

《その他》

動物病院	3
知人	2
日本愛玩動物協会	2
その他(各1)	

震災で学校が休みとなり、学校から要請があったため、救援本部より・母・JKC大阪管理師会・県生活衛生・日本動物福祉協会・物資運搬と同時に、来れる人は来て欲しいといわれて、教授から、杉本先生

I-⑤ 申し込み後、スムーズに活動に参加できましたか(「その他」の回答)

直接現地へ行った	11
自分の希望を聞いてもらい参加した	8
学校でグループを作り日程を決めてから行った	6
勝手に行った	2
その他(各1)	

子供の春休みにあわせて、アルバイトをしてお金をためてから参加した・獣医師会より日を指定された・大学の先生が申し込みをしてくれて希望した日に参加した・新聞記事をたよりに現地へ・土日のボランティアが多いので戸惑った・開業獣医師の先生の付き添いで、獣医師の紹介で、連絡して10日後に参加した・馬場先生が帰られてからという指示があった・要請がきてすぐに参加・2月に申し込んで4月の参加になった・最初は連絡不足2度目からはスムーズ・日本獣医師会から明日から行って欲しいといわれ少し待ってもらいたかった・岩屋に一泊後、神戸のセンターに、長期のボランティアだったらいつ来てもよいと言われた・動物病院

I-⑥ これまでにボランティア活動への参加経験はありますか

身体障害者に対するボランティア	15
老人ホームへの慰問、活動、イベント手伝い	13
炊き出し、食料の配布	6
日本動物病院福祉協会のCAPP活動参加	5
救援物資の整理	5
野性鳥獣の救護活動	5
ガールスカウト・ボーイスカウト・カブスカウト	5
老人に対するボランティア	5
地域のボランティア活動、清掃	4
養護施設	4
日の不自由な方のボランティア	3
国際交流	3
手話	2
点訳	2
献血	2
YMCA	2
署名運動	2
動物愛護団体へ参加、動物愛護の啓蒙活動	2
緑の羽募金	2
児童福祉関係	2
バザー	2

その他(各1)

ライオンズクラブの介護募金運動・車椅子の中学生を月2回スクールバスの停留所に送る・岡山動物愛護会(掃除、散歩)・ジュニアリーダー、福祉センターで身体障害者の方の世話・引越越しボランティア・中国の内モンゴルへ砂漠の植林へ行きました・通訳、青少年教育・野外活動、レクリエーション、能勢のアークの会員で犬の散歩の手伝いなど・ロータリークラブにて、三田市福祉協議会参加の朗読ボランティア・被災者慰安、あしなが募金の街頭での活動・BBと非行少年補導団体・横浜博・キャンペーン事務処理保護活動・岡山日赤ボランティア・弱視の方のための拡大写真、資金援助、物資供給、精神薄弱者施設・海外で電話相談・曹洞宗国際ボランティア協会・WWFの会員・動物愛護フェスティバル・ピラまき・骨髄バンク登録・地震のボランティア(奥尻)・小児糖尿病患者のキャンプ・カヌースラローム大会でのレスキュー活動・歳末救済カンパ・動物関係のNGOへの参加・福祉関係・日赤救済ボランティア・重心施設・学校・国境なき医師団・ユニセフ募金・環境NGO・車椅子ロードレースの手伝い・雲仙普賢岳・WRV・社会福祉協議会・環境調査など、あいのカエル

1-⑦ 今回の震災に関わる、他のボランティア活動へ参加しましたか

救援物資の仕分け、整理	10
炊きだし	10

救援物資の搬入配送	7
あいのカエル	6
避難所の夜警	6
募金活動	5
物資の供給	4
ARKに参加	3
YMCA	3
非難所へのペットフード配り	3
老人ボランティア（入浴など）	2
被災者慰安旅行の添乗員	2
仮設住宅の手伝い巡回	2
灘区ボランティア	2
愛玩動物協会動物愛護団体	2

その他(各1)

義援金の街頭募金・給水・学校へ手伝い・動物救援・震災バザーに参加・小学校の非難所へお風呂の監視・引っ越しボランティア・電気修理のボランティア（大阪能勢町のハッピーハウス＝動物救護所）・自治会の活動・日本愛護動物協会・動物行動調査・三田市老人福祉センター・長田区ビスケット（被災者障害者センター）・須磨区巡回メンタルケア・兵庫区ボランティアセンター・動物関係・神戸日赤病院・迷い動物の保護・海外で電話相談・曹洞宗国際ボランティア協会・友人宅の手伝い・淡路島の祖母の見舞い・市民団体・芦屋市風呂のボランティア・被災者の救護活動・日本赤十字社義援金受付・がんばろう神戸・スイスレスキュー・EPIS 現地本部・学校飼育動物の餌料の輸送・被災地でのアンケート調査・老人ホーム訪問・避難所状況調査・六甲小学校保健室ボランティア

I-⑧ 現在、自分で動物を飼っていますか(「その他」の回答)

() = 飼育しているボランティア数

鳥	36
魚	23
ハムスター	12
ネズミ	12
カメ	7
ウサギ	5
モルモット	3

その他(各1)

シマリス・爬虫類・昆虫・アライグマ・モモンガー・タイガーチェリー

I-⑩ 動物救護のボランティアを選んだ理由は何ですか(「その他」の回答)

何か役に立ちたかった	15
------------------	----

自分自身の勉強（経験）のため	6
ボランティアに参加してみたかった	4
獣医学生（または動物関係の学校の学生）なので	1
動物のことも心配だったので	3
ボランティア不足を知って	3
自分のためになると思った	2
暇だったから	2
人間より動物の方が心がきれいだから、	
言葉で表現出来ない分人間が何かしてやらなければ	2
政府も民間団体も動物のためには何もしないから	2
他のボランティア団体がいっぱいだったから	2
知人の紹介	2
どういう活動をしているのか見てみたかった	2
その他(各1)	

グルーミング専門学校の要請・子供達について行った・現地の状況や、人の感情を理解するには、仕事を並じての方がいいと思った・近かったから・子供が動物が好きなので、以前から飼いたかったから・動物は自分で何も出来ないから・短期だったので人とのコミュニケーションをとるのが難しいと思ったから・動物の運命は人間が握っているから・岡山動物愛護会より派遣されて・身近に場所がなく、探していた・以前からそういう活動をしていたから・一番自分が参加するのに意義がありそうだったから・参加して自分が気持ち良く（素直に）出来るものと考えたから・開業獣医師の付添で・人間より先に動物が大事・可愛がっていた動物を飼えなくなった飼い主を気の毒に思っで・動物に接しているので役に立てると思った・社会的に一番弱いから・授業の一貫・被災犬にあって見たかった・動物の救護が後回しになりがちなので・当然のことだから・何も分からない動物だからこそ痛みもわかる・人間の方は人が集まりやすいが、動物のことは好きじゃなければできない・実際の現状を知りたかった・小学校にいたお年寄りの方の犬がその後どうなったか知りたかった・面白そうだったから・動物業を扱っている職業上

II-① ボランティア活動中の、主な作業は何ですか(「その他」の回答)

洗濯	18
掃除	10
動物のエサ作り	7
投薬、治療の補助、ICUでの作業	7
トリミング	5
里親申し込みの受付	4
餌入れを洗う	4
消毒管理	4
新しいボランティアや、新しく入る動物の受付	3

動物救護本部電話受付	2
いろいろ	2
ゴミの処理	2
その他(各1)	
他の獣医師が仕事をしやすいように雑用をした・犬猫の食器洗い・隔離部屋の世話・泊まり込みのボランティアに家を提供した・かまってもらえない犬の相手・手が空いたら何でも・机、椅子、事務用品の持ち込み。肉体労働・迷い犬猫の搜索・里親に犬を紹介・チーフ(犬)・毛布やタオルを集めた・アヒル(ピーコ)の飼育管理・犬猫の扱いについて、ボランティアの指導・センター運営に関するあらゆること・飼料貯蔵庫の整理、雨漏り対策・昼食の後始末・放浪動物の収容、ペットフードの配付・買い出し・里親・営繕作業	

II-② 上記の作業は支障なく円滑に進められましたか。もし問題があったとすると、それはどのような点ですか。

《良い点》

皆で協力しあえた	35
仕事の指がが行き届いていた	25
楽しかった	7

《悪い点》

作業の指示系統が不明、仕事がスムーズにいかない	84
人間関係で問題があった	22
ボランティアの人数調整の不備	20
動物の管理状態が悪い	12
薬や道具などが足りない	9

《改善案》

ボランティアの人数調整	46
仕事の説明、分担をして欲しい	29
仕事の引き継ぎをきちんとする	16
施設の改善を望む	13
動物管理面の向上を望む	12
リーダーを作って欲しい	9

II-③ 現地へ到着後、スムーズに活動に加わることが出来ましたか

何をしたら良いかわからなかった	35
説明、指示がなかった。説明、指示は必要だと思う	19
人が多く仕事がなかった	6
リーダーが必要	4
前からいたボランティアに気を使い、進んで色々な行動がしにくかった	2
古いボランティアと、新しいボランティアとの人間関係	2

仕事が少なかった	2
着いてから40分も待たされた	2
初めてなので少し戸惑いがあった	2
その他(各1)	
なかなかなじめなかった・システム化されていて自由でない・指令系統の不備・一人で参加した為、打ち解けるのがしんどかった・通いのため泊りの人が怖かった・長期の人はファミリー的で他人が入り辛かった・まごつくこともあった・長期の人が親しくしてくれず、聞いても説明してくれない・動物よりも人間関係で困った・既に活動しているボランティアが受け入れようとしなない・年齢ゆえに、無視された・現地に着いた時間が中途半端だったので、1時間ほどすることがなかった・マニュアルを作るべき・最初は何をしたら良いのか分からなかったが、だんだん分かるようになって嬉しかった・どんな場合でも探せば仕事は見付かるものだと知った・事前に申し込んでいるのに連絡が来なかった・グループが出来ていて入りにくかった・猫のことは知識がなかった・泊まり込んでいるボランティアばかりが仕事を握っていて、新しい人や通いのボランティアにひどい偏見があった・最初指示待ち状態が多かった・会社で参加という事なので、時間が決められ少ししか手伝えなかった・短期の人にはあまり仕事が回ってこない。手が空いている人もいた・人と遊ぶことや散歩する事以外の詳しいことは考えてこなかったし、知識もないので、それ以外に何をすればよいのかもわからなかった・一度県庁前に派遣され、そこで北区に行つて欲しいと言われ時間が倍かかった・日本獣医師会からの連絡がとれておらず、宿泊するスペースはないと言われ、困った・自分が求められているのか不安だった・窓口がいくつもあり、どこへ行ったらよいかわからなかった・地元獣医師会と愛媛会の協力体制作りに時間がかかった	

II-④ 活動に参加した他のボランティアとのコミュニケーションは十分でしたか

色々な人と話が出来た	29
電話したり、手紙や写真を送ったり、連絡をとっている	27
会話、ミーティング、遊びでコミュニケーションをとった	17
一部の人(同じ仕事をした人等)とは仲良くなった	13
夕食、風呂、活動後の団欒、飲み会等	13
既に出来ているグループがあって(特に長期の人)、入りやすかった	11
コミュニケーションはとれたと思う	10
短期だったため不十分だった	4
活動中殆どコミュニケーションはなかった	4
その場に居合わせた人と少し会話をするという程度	2
学生さんとも獣医さんとも気軽に話しあうことが出来た	2
同時期に参加した人とは上手くやれたが、	
始めから継続していた人達とはコミュニケーション出来なかった	2
おとなしいタイプの人は場になじめず、1日で帰った人もいたので、	
そのような人達への気配りが必要なのではないかと思った	2
皆楽しく明るい人ばかりで働きやすかった	2

同じ学校の友達といることが多かった	2
通いのボランティアの人達とは話しが出来たが、長期の人とは出来なかった	2
活動終了後に家に遊びに行ったりした	2
あまりしなかった。年齢の差があり過ぎる	2
紹介も何もなかった	2
目的が一致しているのですぐ打ち解けられた	2
友達がたくさん出来た	2
同年代の人が多かったので仲良く出来た	2
違う仕事間でのコミュニケーションの不足	2
親切な人が多く聞いたらよく説明してくれた	2
宿泊だったので友達になれた	2

その他(各1)

獣医師側も、素人相手ということをも十分意識して、行動、言動を行っていた。様々な人が集まるので一緒にやっていくので色々問題はあると思いますが、その時点ではあの形で仕方ないと思います。できれば指導者が欲しかった。最初から派遣されているボランティアとの会話もなくて、救護されている動物の話しとかも分からなかった。広い方面からの人達が集まっていたので、色々な話しが聞けたし、生活も楽しく、自分自身生き生き出来た。長期と日帰りのボランティアの意気込みの違いに戸惑った。人数が多かったので十分話せた人もいたし、そうでなかった人もいた。十分だが、やはり短期の人とは話す機会があまりなかった。一部の人達とは今でも手紙のやりとりをしている。ボランティアのストレスの解消のために、休みの日に外に連れて行ってあげている。同じ目的のために集まった仲間には国境はないと思った。夕食などを一緒にとることによって会話でき、スムーズに出来た。若い人や遠方からの参加者の多さにびっくりした。仲良くなった人もいた。遠方からの人には頭が下がる。初心者でもすぐに活動に入れる状況であった活動終了後の交流はない。嫌なこともあったけど、少しずつ助け合えた。こちらから話しかけないかぎり無視される。年齢の差と自分の社交性の乏しい性格によるものと思う。母親の様な存在として見られていました。若いんですけど、リーダーを決めてメモを貼って誰もが状況を分かるようにしていた。泊り込みのボランティアは、日帰りのボランティアに対して少し言動を慎んで欲しい。不十分の理由は動物愛護協会の名をかりたリーダー格の、愛人の女性のせいと思う。仕事の手順などの説明を聞いていけばスムーズに出来た。関西の人が、関東の人に失礼だった。獣医学生、トリマーなどの関係者でない人に冷たかった。あいさつ、学校の話し等をした。年齢、職業、立場等の相違からこの程度ではないか。地域で知人が増えた。話しをする暇もなくTELが忙しかった。散歩のみで話しはしなかった。活動の日時、内容の連絡が来なかった。不足の材料等連絡しておけば2～3日後に届いている。帰りにバス停まで送ってもらった。初めて会ってもすぐチームワークがあり協力しあえた。ひとつの仕事にしてもマニュアルがバラバラでやりにくかった。犬の散歩をまかされ、散歩に行こうとすると他の人に、この犬はダメと言われて恥をかいた。末端の電話係だったので他のボランティアと交流がなかった。とれている人もいればとれていない人もいて、これは個人差だと思う。犬を飼っていないので、犬を飼っている人同様の様にはコミュニケーション出来なかった。治療に迫られて話す機会がなかった。トリミングをしていると経験のない人も色々手伝ってくれた。長

期で働くためにも、コミュニケーションは絶対不可欠・色々仕事に関しても話しあう事が出来たが、夜中までのバカ騒ぎは止めて欲しい・ボランティアをする人は純なひとが多い・楽しく犬の散歩や料理を作ることが出来た・学生や若い方が多く、ちょっと馴染めなかった・空いた時間に一人でも多くの人と話しをしようとしたが、なかなか大変だった・いろいろ教わり勉強になった・少人数の受付で仲間割れしたものの作業が滞る事はなかった・2泊3日の短期間では仕事で手一杯・与えられた仕事をこなすだけだった・男性……同業種の人との問題は少ない・女性……短期のAHT等では再度来たいと思わないとの意見あり・役割分担などの明確な指示が会ったほうが良い・ミーティングがなかったため全体像がつかめず、グループが内部分裂したりした・相談する、笑う、語る・中心になってまとめる人がいなかった・短期だったので以前から活動している人に話しを聞いて、仕事に慣れる助けとした・最初の2日間は東京からと言う事で、関西の人とは疎遠になりがちだった・若い子達ばかりだったので少し考え方のズレはありましたが、皆いい子達ばかり・やはりボランティア生活が長い人同士の方が仲良くなると思う・数人で三田の獣医さんのお宅へお風呂を入りに行ったり、寒い厳しい環境の中苦楽を共にした・色々な人に優しくしてもらった・通いの方や先にボランティアに入っている人とも仲良く出来たと思います・毎日楽しく出来た・三田では話し合いがあり、和気あいあいとしていた・神戸では何となく新参者が気後れしてしまっていた・責任者がどんどん変わり、その度に今まで蓄積していたのがゼロになってしまった・仕事の跡でボランティアルームに集まる人とはコミュニケーションをとりやすいが、それ以外はなかなかである

II-⑤ 動物救護関係以外のボランティアとの交流はありましたか

有った	2
有馬温泉	2
食事を作ってくれたおば様方	2

その他(各1)

灘区内のグループ・震災バザー等を計画実行していた、福祉協会・COOPのボランティアの人達・他の活動にも参加したため交流はあった・障害者の介護ボランティアをした人の話しを聞いた・避難所で・炊き出しで交流有り、住所等を聞いて連絡をとっている・以前違うボランティアをしていた人に話しを聞いた・各地の活動報告・YMCA救援隊・神戸市役所の新入りの公務員から対応の苦勞話を聞いた・しあわせの村、障害センターの方々、職員達と情報交換した・「人間のまちづくり映像フォーラムin札幌」のお手伝い・スイス隊・復興のボランティアをしていた人と・西宮保健所でボランティアをしていた方と、よく電話をしたり、手紙を出したり、写真を送ってもらったり、会ったりしています・東灘区の避難所(小学校)に宿泊し、情報交換した・地元の獣医師会と県動愛

II-⑥ 現地での作業時間以外は、どのようにして過ごしていましたか

友達、獣医さん等のおしゃべり	168
犬猫と遊んだ	85
寝てた	51
他人とのコミュニケーション(ゲーム、スポーツ等)	37
食事(おかし合)	36

ずっと何かしていた	26
家に帰った	20
読書	20
ボーッとしていた	18
散歩	9
震災地を見学	8
買い物	7
睡眠をする部屋、ミーティングルームでくつろいだ	7
酒	7
風呂	6
食事の用意	6
TV	6
ディスカッション	6
洗濯	5
有馬温泉	5
時間があまりなかった	5
巡回	3
施設全体見学	3
何もすることがなかった	3
部屋の整理	2
受付だったのであまり動かなかった	2
車の中にいた	2
学校飼育動物の観察、ならびに飼料配達	2
外出	2
ゴミ焼き	2

その他(各1)

食事作りだったので朝から夕食の分まででした。通いなので、通いだったので作業時間というものには特に無かった・動物の餌をテントの中に運んだ・休憩時間が多かったので肩透かしのようだった・獣医の先生の病院を見せてもらった・犬の散歩以外には短期参加者にはさせてくれないし、自分が邪魔ではないかと思うくらい暇だった・遠方のため作業時間以外は殆ど移動時間にとられた・午前中のみ参加・トイレ掃除・ハウスの修理・通いの人が家へ招待してくれた・洗濯専門でしたが、洗濯機が少なく、水では悪く、下はぬかるみ、干す場所はひどく、緊急の設置かも知れないが段取りが悪すぎる・ARKの見学・日常的に過ごした・日赤への現地状況の報告・事務所の方に犬の事を伺っていました・食事作り、片付け・観光・水泳

Ⅲ-① 今回のボランティア活動期間中、一番うれしかったことは 人間関係、友人が出来た、
 たくさんの人との触れ合い 122

動物と触れ合えたこと	102
動物が里親や飼い主に引き取られたこと	88
動物達が元気になったこと	26

自分が役に立った	24
皆が一生懸命だった	14
Ⅲ-② 今回のボランティア活動期間中、一番悲しかったことは	
動物の様子。おびえ、悲しそうな目、鳴きやまない等	72
動物が死んだこと	68
人間関係が上手くいかなかったこと	37
動物の置かれている環境の悪さ	36
少ししか参加できなかったこと	15
動物との別れ	15
Ⅲ-③ 今回のボランティア活動期間中、一番困ったことは	
施設について、トイレや風呂等	56
仕事が終わらない、指示されない	41
動物のこと、散歩の仕方や咬む等	44
ボランティアの人間関係	37
交通機関	23
天候、夜の寒さ等	19
仕事がない	14
暇な時間の過ごし方	5
Ⅲ-④ 今回のボランティア活動期間中、一番気になったことは	
《動物のこと》	
動物の今後	64
動物の現在の飼育環境、飼育状況	45
《ボランティアのこと》	
人間関係	39
人数	31
人間の質が悪い	24
仕事がない、上手く進まない	20
《センターのこと》	
センターの今後	23
運営について	16
施設について	14
Ⅲ-⑤ 今回のボランティア活動期間中、自分の意見を述べる機会がありましたか	
《機会》	
有	181
無	184
ノーコメント	9

《有の時》	
特にコメントなし	114
仲間内で	36
ミーティングの時	31
Ⅲ-⑥ 救護施設の設置場所に関して、何かご意見はありますか	
良かった、やむを得ない	81
交通の便が悪い	53
地盤沈下、土砂崩れ等で場所が悪い（三口動物救護センター）	12
Ⅲ-⑦ 今回のボランティアの組織・運営について、気づいたこと、提案などがあればご記入下さい	
リーダーが必要	32
ボランティアの人数調整の必要	25
仕事説明すべき	16
仕事分担すべき	15
組織構造わからない	15
指示、命令の一本化の必要	15
マニュアルが必要	11
マスコミ等を使って活動をもっとアピールして欲しい	11
人間関係で問題有り	10
仕事がよく分からない	10
話し合いの場を設けて欲しい	9
義援金、センター運営費の使用方法	8
ボランティアの、里親への対応が不親切	5
一般ボラと獣医学生の差別反対	4
Ⅲ-⑧ 今回のボランティア活動に参加したことを、どのように評価していますか	
《有意義だったと答えた人の「その他」》	
有意義だった	11
いい人達に会えました	5
自分を見つめる機会になった	4
大震災時の現場を見れた	3
少しでも犬の助けになったかなと思います	3
あまりボランティアとしての活動は出来なかったと思う	2
人間関係の難しさを知った	2
その他(各1)	
何かすることが出来たので、そんなに長時間通えなかったのも、自分が情けない・自分のすべき事をしただけ・将来やりたいことが明確になってきた・組織力と若い力を感じ安心・犬の世話が出来てよかった・あたりまえのことだが、小さな命を少しでも手助けしたいと思った・参加できてよかったが、仕事を待っているばかりで自分が情けなかった・私用で帰らなければい	

けなくなり、後悔が残りました・情報は得られたが活動自体には疑問・現在の日本や海外のボランティア活動の状況など色々聞きました・ボランティアとは何かを考える様になった・気持ち良く仕事ができた。動物病院でアルバイトをするきっかけにもなった・小さな力が集まってこそひとつの大きな力が生む事を分かって欲しい（ボランティアに関心のない人に）・一人では少しの事しか出来ないが、大勢だと多くの仕事ができた・本当に「塵も積れば山となる」を感じた・小4の息子もボランティアとして十分お手伝いできることがわかった・意義とかではなく、自分の地元に戻っただけ・自信がついた・運営全体に問題が多く感じられ、素直に言えない・日常的な事として参加して、犬猫と楽しく過ごせて良かった・動物のことを一生懸命考えている人がたくさんいると知った・ペットは飼い主がいてこそペットなのだという事を考えさせられた・獣医師の仕事が理解できた・人間だけを助ければ良いというものではない。被災した人の心のケアのための、ペットの行き先が会っても良い・被災地の中で働けた

《有意義とは思わなかった理由》

仕事に満足に出来なかった	3
当たり前の事をしただけ	3
人間の対立	2

その他(各1)

もっと親密に犬と触れ合いたかった・思っていたのと違って・有意義と思う事もあったが、不満疑問も多かったから・初体験の人と仕事を共にやっていく難しさと充実感を感じました・責任者と思われている人があまりに分かっていなかったため、やる気が吹っ飛んだ

その他

例えば100人の人間を管理する難しさを考えさせられた・自分以外にも馬鹿が世の中にはいるという事・全くの無駄とは思わない程度・要請されて行ったので特に考える事はない・自己確認・私はボランティアに意義は求めません。ボランティアですから・ボランティア貧乏になった・ボランティアがいかに大変かわかった・楽しく充実した1日となった・もっと続けるべきだった

Ⅲ-⑨ これを気に、今後何らかのボランティアに参加したいと思いますか

動物関係をしたい	40
もう一度センターに参加したいor続けていきたい	14
自分で出来ることは是非参加したい	6
何でも	5
老人ホームの訪問	4
わからない	3
動物に対してだけでなく、色んなこと	3
機会があれば	3
子供に関するボランティア	3
職業上何か役に立てば	2
お年寄りの介護	2
身障者(視覚、聴覚障害者等)のボランティアに参加したい	2
時間ができれば	2

以前から参加しているボランティア活動 2
 その他(各1)

休日に出来ること・既に続けている・国際保健に関わること・自分の心に余裕があれば・管理士なので活躍中・現在大学のボランティアサークルに所属しています・老人の話し相手。朗読等・今までしてきた以上に色々としていきたい・これからも「アーク」続けていきます。・災害時には・お金ができれば・今回のように臨時的にボランティアが必要とされる時には・自分の事を必要としているものがあれば・老人ホームなど、犬猫を連れて訪問したい・とりあえず献血するようになった・日本にいる外国人の方に役にたてる活動・現在数多く活動中・獣医師が必要であるならどこでも・県のボランティアに登録したので、要請があれば参加したい・現在、仮設住宅を訪問して一人暮らしの人々の話し相手をしています・CAPP活動をもっと広げたい・週1～2回程度通える範囲で・内容に関係なく若いからこそそのパワーを役立たせたいです・自然保護関係・お金がかからなければ絶対やる・日本動物福祉協会の賛助会員に加入した・資格を生かしたボランティア活動をしたい・年齢的に無理だと思いますが、やはり誰かの役に立ちたい・主婦なので家事に支障のない程度に、野性動物の保護をしている(孤児院で)・自然愛護の活動・愛玩動物協会の方から活動していきます・福祉関係・NGO関係・身近に参加できるものがあれば・動物愛護会

Ⅲ-⑩ 今回のような、災害時における動物救護活動の開始時期について(「その他」の回答)

現実には「人間の救護優先」、理想は「人間も動物も同時」 8
 わからない 4
 状況による 4
 災害時に人間だの動物だの言っている場合ではないと思う。
 救出も救護も命あるものにはいち早く必要だと思う 3
 動物が先です。人間は勝手に生きていけるから 2
 もちろん「人間も動物も同時」です 2
 可能なら「人間も動物も同時」 2
 その他(各1)

言いづらいことですが、正直に考えて、やはり人優先の考え方です・あくまで人命を尊重すべきだが、可能なら両方同時でも良い。野犬があふれたり、飢えない人が困ったりで、結局人に迷惑が及ぶことがありうる・時と場合による・出来ることをやればよい・人間優先であっても動物の救済は可能だと思う・どちらかを優先したら助かる命も助からない・問がたつにつれて犬猫も怖がり、助けられなくなりそう・思った人が始めれば良い。あとは結果が証明するでしょう・動物についても人間についても救護活動、ボランティア活動は多様であるべき・その場にいればすぐ動くものでしょう・今後から人と動物がほぼ同時に救助されるように対策をうつべき・家族である動物が放って置かれたら、人間もおちおち救護されてられない・人間、動物関係なく出来ることから素早く行動をおこす・共に被害者です・基本的にはそうだが、現実問題、人間社会である以上困難だと思う・始める時期よりもいかにして終わりにするのかの方が重要。今のような現状を無視したやり方ではダメ・どちらが優先という事はないと思う・出来る力があれば同時にした方が良いと思います・動物のボランティアは別に確保しておいたほうが良いと思う。まず人の方にはボランティアは集まると思うので・こんな大変なときに動物な

んてと言う人もいるし、動物は次の次になると思うので、動物ボランティアもいていいと思う・人間の方はわからないが、今回、動物の救護も本当に必要だとわかった・今回は行政が対応するのが遅すぎた・どちらが先ではなくて、どちらもなるべく早く充実することが大切・動物救護の専門職もあり、人と動物の立場が高レベルに考えられる社会であれば良い・出来ることなら体も心に傷を負った全てに対し、いち早く救護活動を行うのが理想・出来るだけ早く「人間も動物も同時」に出来るように、「人間も動物も同時」が良いが、混乱しているときには物資の無駄になりそう・どちらが先と言うのではなく、その場の状況に応じて、人間第一。だが、まずは自分の身は自分で守るべき。そうでないと人や動物を助けるどころではないから・動物は言葉も話せないの、人間がしてやらないと何も出来ない・動物も人間も同じ尊い生命です。だから人も動物も同時に・動物も同時に救護とは思うが、飼い主あつての動物、また動物を生きがいにしている方もいるので、どちらとも言えない・非常に難しいです・どちらを先にしても苦情が出ると思うが、今回ぐらいで良いと思う・国はもっと早く動くべきだし、救助国に対してもっとOPENになるべきだ・同時に開始したほうが良いと思うが、パニックになることもあると思うので難しい

Ⅲ-① 今回のボランティアへ参加後、動物への接し方は変わりましたか

動物に対して優しくなった	9
動物の身になって考えるようになった	8
犬、猫が好きになった	7
今までと同じに大切に思っている	6
見知らぬ動物にも親近感を覚えるようになった	6
犬、猫の正しい接し方、飼い方が分かった	5
犬猫の健康には気をつけるようになった。よく観察するようになった	5
スキンシップが増えた	4
自分の周囲の動物は幸せだなあと思った	3
わからない	3
大きな犬も怖がらずに近寄れるようになった	3
扱い方が変わった	3
何となく散歩の仕方が変わっていた	2
犬と暮らしていることがこんなにも幸せなんだと実感した	2
前は動物をいじめたりしたが、なくなった	2
動物の日を見るようになった	2
どんな性格の動物に対しても、ある程度自信がついた	2
動物はただのペットではなく同じ生命のあるものという事を実感し、 時には厳しくならなくてはと思った	2
トレーナーさんに教わったしつけ等をやってみた	2
色々な性格の犬や猫がいるのだと思った	2
犬は人を咬むという事を知った	2
前より捨て犬捨て猫の事を考えるようになった	2
慣れた	2

その他(各1)

患者の立場、動物の立場に戻って診療を、同じ目線で見ることが認識しました・近所の犬猫もそうになっていたかも・自分がリードしてあげないと犬は迷ってしまう。今までの犬の自由という感覚から、自分について来させなくてはという感覚に変化した・少しだけ医学的に見ることが出来るようになった・餌入れ掃除を前よりもするようになった・犬を見る日が変わった・無事だった犬達を見て改めて良かったと思った・子供達が犬と楽につきあえるようになった・救護センターにいた犬達がどんなに精神的にストレスがたまっているかわかった・ペットの大切さを改めて感じた・ウロウロしている犬が以前より多いように思い気になります・動物の事をもっと知りたいと思うようになった・もっと動物を可愛がらねば・動物の私への接し方も変わった・より一層、かわいそうな動物に目が行き、大きなお世話をしている・身近な動物にはしてあげられることをしてあげたい・様々な動物が以前より身近に感じられる・以前にも増して可愛く思える・糞の始末がそれほど嫌でなくなった・ここにいる動物より幸せなんだと思える・あらゆる動物に目を向けるようになった・家庭の事情が許すかぎり、動物を飼いたい・ひいきをしなくなった・AHTB指すために動物病院に就職した・以前にも増して命の大切さを知ったように思う・犬猫の食事に気を使うようになった・近くにいる動物に話しかけるようになった・自分の生活に動物が入っている時間が多くなった・悲壮感がなくなり、より人に近い様に思えるようになった・自分の家の動物に迷い札を付けた・ちょっと手荒になった・犬が全然怖くなくなった・災害時動物をどうしたらいいのか考えた・精神面でのケアを大切にするようになった・全ての動物を平等に見るようになった・動物に対する意識・一門に犬と言っても、一頭一頭違った心をもつ存在として見るようになった・地元で捨てられている犬や猫の里親探し・よその犬達とむやみに触るのを止めて、様子を見るようになった

Ⅲ-⑬ 複数回にわたって参加された方の現地で活動された動機・理由について

動物が心配だった	24
何か役に立ちたかった	21
友人がいた	13
人手が足りないと聞いて	6

Ⅲ-⑭ 複数回にわたって参加された方への質問で、現地における活動について、経日的変化を感じたか

《ボランティアの数》

どちらでもない	54
減った	13
増えた	3

《運営のシステム化・効率化・マニュアル化》

どちらでもない	33
良くなった	22
悪くなった	15

《その他》

施設・建物が変わった	11
------------	----

ボランティア活動についての意見

(原文に近いかたちで掲載しておりますが、全文ではありません。また重複した意見は、できるだけ省略しております)

- この大震災によっていろいろ考えさせられました。自分の家も災いにあいながらボランティア活動をされた方(私も含めて)身にしみて体験しました。そして地方からも多くの方が来られて、皆さんの暖かい気持ちがよくわかりました。いざというときにすぐ活動が出来るようにあります。
- ボランティアは無給なので、仕事をしなくても生活に不安のない人が中心になってしまいか、団体内で給料が貰えるような人がなくては出来ないことです。活動団体があればそのようなことが可能だしリーダーを育てる事も出来るのではと思います。
- 経済的にもっと行政のバックアップが欲しい。行政はあらゆる事でボランティアにたより過ぎている。
- 私は数日しか通って活動をしていないので、世間でいうボランティアブームに流されたようなものです。ただ言っておきたいのは本当に動物が好きで、何とか力になってあげたいと思ったんです。だけどなんの力にもなれない自分を知り、ボランティア活動をやめました。なさげなくて意見の言える立場ではないと思っています。
- 犬猫の世話がこの次になっていると思わせるフシがたびたびあった。それと長くいるボランティアで勢力図が出来上がり、ポツと来たボランティアにとっては人間関係がすごく怖い。最後に非常に贅沢なボランティア生活だと思った。お風呂はいいとしてもTVにビデオ、はたまたカラオケセットまであるとどこからそんな大金が出るのか不思議に思う。このお金を他の被災者に分けたほうがいいと思う。この賞状もうれしいが、このお金を他のことに回したほうが良いと思う。
- TVやラジオなどは人間のボランティアの募集ばかりで、動物のは本のちょっとしかない。私も友達がセンターに行っていれば今も動物のボランティアがあるなんて知らなかったと思う。動物も人間も同じなんだから、もっと動物のボランティアも広めて欲しい。特に平日の人の足りない時は10人もいないんで、いつも10人以上いたらまだましだと思う。結論を言えばくもっと動物ボランティアを広めて、多くの人に来てもらいたい>それだけかな。
- 緊急時の動物管理のマニュアル作りをしたほうが良いと思います。感謝状を作るくらいなら散歩網の一つでも買ったほうが良いと思う。
- ボランティアとは言え、リーダーは必要だと思う。内部で新しく来た人が仕事を指示して欲しいと訴えたが自分で見付けて下さいとケンカになってました。ある程度組織的にしたほうが無駄な労力が無いと思う。そのときはみんなの善意が空回りしていると思いました。1人で来ている人はみんななじめなかったのでリーダーが全員に紹介する時間とかがあっても良かったと思う。大変でしょうががんばってください。
- 感謝状が送られたことに疑問を感じます。無駄な出費です。他に使うべきところがあると思います。今後、気軽に参加しにくくなるのでやめてほしいです。とにかく私にとっては感謝状を頂く理由はなにもないのです。かえって嫌な気分になってしまいました。(この意見多数あり)

- たった1日お手伝いに行っただけで、かえって他の方々にお世話をかけてしまいましたのに、このような立派な感謝状を頂いて大変恐縮しています。出来ることなら存分に活動したいとは思いますが、家庭があり仕事があり身勝手な人間に捨てられた7匹の犬猫が私を待っています。外にもお腹をすかせた猫達があります。被災動物の為に何か出来ることはないかと三田まで行きましたが、私の考えの甘さに気付きました。感情だけで行動しても何も解決しないと。しかし、現地に行って見て一生懸命活動されている若者の姿に一条の光を思い出したようで本当に安心しました。そして三田までの交通費（4000円ぐらい）を寄付したり里親を探したりという方法で私なりに参加したいと思います。今回の事で大きな組織を知りましたが、地域の小さな活動も大切にしていきたいと思っています。一人でも多く小さな命をいつくしむ人が増えてくれるようにこれからもがんばります。被災動物の救護活動をしておられる方々に心から敬意を表すと共に今後とも益々のご活躍をお祈り申し上げます。
- 感謝状を頂けるなんて思ってもいませんでした。たった2回しか行けず、申し訳なく思っておりました。皆様のご尽力、大変なものだと思っております。災害が来てはじめて多くの事を学びました。すてきな友人も出来たし、日本国中の若い方、年配の方が兵庫県の動物、人の為に来て助けてくれたこと、一生忘れたいと思います。里親の件で何か出来ることがあればやりますので特に富山県など行く機会も多いので、よろしくお願いします。
- 引き取られていった動物達のその後の消息が知りたいです。
- 今残っている動物の最後の一匹まで里親が

見付かるといいのですが.....

- 老犬や病気の犬などの里親探しを優先させて欲しい。わが家には西宮から24〜25歳の老犬の里親に管理上の使命感のように思われたから(ミックス種)、安楽死の話の話を聞きました。本当ですか？
- 先生方や長期ボランティア（雇用）には、本人が善意からそれを断ろうと、休日を十分にとらせるべきです。先にも書きましたが疲れゆえに体が動かなくなってきたり、精神的にまいってきたりすると規則でそれをうめようとするところがあります。その場にいる者も、それを聞く者も苦痛でしかない。私なら何とかしてしまおうとするでしょう。でも私は過去でしかない。良かった時代を今さら押し付けても仕方ない。これ以後、この様な災害があった場合（こまりものですが）もう一度みんなが思い出して何らかの活動に出られるようにネットワークを刺激することも必要ですね。半年に1回ぐらいミニコミ紙を作れたら良いのですが..... この時期になっても将来の定まらない学生では何も出来ませんね。...
- 現地に着いてすぐ話をした獣医さんが「自分のしたいと思うことをするのがボランティアだと思うので、誰にも強制は出来ないが、みんなしたいと思う仕事は同じで足りないところではいつも人が足りない」と言っていた。確かにそうだと思った。「自分が何をしたくて来た」のかということと同じぐらい「今何が必要とされているのか！」を見極めることも大切だと思う。そういう人材を育てる事が大切だと思う。
- ひきとった被災犬もすくすく育って、元気になっております。今後もし人手が足りなくなればぜひ私で良ければ参加させて頂きたいと思っています。
- 家が近いため、何か役立つかと申し込みに

行きましたが、ちょっと邪魔の様な雰囲気でした。今は足りてるから足りなくなったから前口にでも電話して確かめてから来て下さいとの事。2度ほど電話しましたが、今は結構ですとの事。その後、私も姑を引きとったり等忙しくなり、結局申し込み日にドッグフード、キャットフードを持っていっただけで、何もしてません。でもボランティアをまだ募集しています。登録した後実際に活動させて頂く時期など、足りなくなったときに又、募集でなく登録している人に電話など連絡は出来ないのでしょうか。

- 自分の名誉や、自分の力を誇示するためにリーダーシップをとる人間がのさばった為に引き取られるべき犬達が幸せの道を断たれて本当にかわいそう。何の為に多くの心温かい人達が頑張ったのか、何の為にこのボランティアをしたのか。ご丁寧に感謝状をお送りくださりありがとうございました。大切に飾っておきます。今後ともどうぞ動物達の幸せの為に頑張ってくださいますことをお願い申し上げます。
- 活動内容によって、息長く可能なことに参加できればと思います。ボランティアというものが自然体で出来るよう楽しく交流できるものになっていくようにと思います。子供たちの生活の中で伝えていきたいことの1つです。学校や地域の活動に取り入れて、ゆるやかに日本の中で育ててゆきたいものです。
- 現在の救護センターの状況を定期的に新聞の震災関連伝言ページの所で知らせてもらいたい。
- 活動そのものというより、動物達の今後について一つの提案ですが、フジテレビで毎日AM11:25に放送しているペット百科のような番組で里親探しのコーナーを作ってはどうか？関東地区では最近めっき

り被災動物達の放送が減っています。またボランティア募集の情報もTVなどをもっと利用すべきだと思います。私は最初にボランティアにいきたいと思ったときテレビで見てテレビ局にTELで問い合わせをして、そちらへたどり着きました。

- その後動物救護（その他でも）のボランティア活動はどうなっているのか気になる。普通の新聞に載せるのも良いが「ボランティア新聞」でも作って情報を知らせて欲しい。「こんなボランティアを募集しています」とか知りたいです。有料でもいいと思います。とにかくボランティアやりっ放しは嫌です。
- 私は自分で知り合いの獣医さんに聞いて現地に入りましたが、その前にTVで募集していた「動物救護本部のボランティア募集」というところに電話して登録していたのに、結局連絡がありませんでした。そうやって連絡を待っていた人は多いと思います。そういう人材をもっと生かして活動できればもっと何か出来たかも知れないと思います。今後活動したいがどうしていいかわからない（どこに行ったらいいかわからない）という人達に対する対応の仕方をもっと考えればボランティアが定着するのではないのでしょうか。今回は特に初めての事でしたので、仕方がなかったと思います。
- 現地の運営に関しては十分に現地のことを熟知している泊りのボランティアの考えを尊重して欲しい。現地ではいろんな問題を試行錯誤しながら対処していることをもっと考えて欲しい。
- ①大阪府能勢の"ARK"はずっと以前から動物を保護しておられる。災害の為に作られた救護センターのように気合は入っていないが、自然に参加できて、少し時間が出来たときなど散歩のボランティアなどできて

良い。神戸の救護センターは恵まれている方と感じた。もっと救助をしてほしい。(2)兵庫県の本部にボランティア登録のTELを入れたが、人が多いと断られたが、現地では一人でも多くの人の参加が必要のようであった。本部と現地とではかなりのへだたりがある。本部の在り方をもっと考えるべきだ。

- 里親探しをもっと積極的にして欲しい。
- 現地で一番大変なのはシステムを作り上げること。
- 今日の経験を活かして、より良いシステムを作り、次回に備えて結構だが、合理性を追及し過ぎて楽しくないボランティア活動になってしまうのはどうだろう。
- ボランティア活動はすべて「善意」の心のなせるわざ。しかしその「善意」も度を越えると身勝手なわがままになる場合が多いです。多くの「善意」をいかに洗練された形でまとめあげ、引っ張っていくかが大切なことと思われまます。活動の「質の向上」に今後努力していければと思います。
- ①救護センターの所在地のボランティアを数多く募ることが長期戦には必要かと思われまます。(2)感謝状を頂きましたが、十分に意義を理解し、自己参加ですからあのような立派なものは不要です。一枚の経過報告で充分です。今後の参考にして下さい。
- 私は2泊3日の参加でしたが、参加後非常に矛盾を感じたことが一つありました。それは、確かに震災で被災した動物はすごくかわいそうですが、他にもかわいそうな動物はたくさんいるということです。保健所等には死を待つみの犬猫がたくさんいます。それを思うとこちらの被災動物の方がむしろ幸せではないかと考えてしまうのです。現に、ボランティアへの参加後、私は生まれてすぐの子猫(捨てられていた)を育て

るハメになってしまいました。(育っています。今生後4カ月目)と言うわけで、被災動物のみ里親募集をしたり、被災動物を里子にしたりして助けることだけが動物の為になっていると思わないで欲しいと思うのです。又、県も参加しているのですから、ボランティアばかりに頼らず、県や市の職員も、もっと参加すべきだと思います。

- 震災当初は、被災動物の手当てなど獣医師は必要であったと思うが、現在は収容動物の健康管理が主であって、毎日一人の獣医師の巡回で充分だと思います。我々のようにまだ若く、犬の散歩、食事の用意など別に気にせず活動出来る人は良いのですが、獣医仲間の大半は少し立腹して帰って来ているのが実情です。獣医学生、インターンにとっては良い勉強の場になるであろうと思いますので、常時センター内に獣医師を雇えばいいのではないのでしょうか。収容動物の命あるかぎり救護センターは存続しなければならぬのであれば奉仕という精神からは逸脱してしまいますが、獣医師一人置いておけばいいのではないかと思います。現在ボランティアの方々の食事代などは、救援金(義援金)が当てられていると聞いています。少ない給料でいいと思いますが、獣医師一人雇えないものでしょうか。そうすれば私は、獣医師の立場でなくボランティア活動に参加したいと思います。
- 日本人のモラルとして動物達の命を軽く見られがち、表面ばかりカッコ良くてもまだまだレベルの低い考えを持っている日本人が多い。少しでも早く、動物の命も人間の命も同じ価値になるよう働きかけるボランティアが欲しい。
- ボランティア、ボランティアと騒がないこと。人が困っているときには助けるのが当たり前。ボランティア団体の必要性なし。

各自が自主的に行動とれる大人の日本人になれること。人がやるからやるのではない。

- 現地に着いて獣医師以外の人、具体的には獣医学部以外の大学の人、短大の人が来ていて驚いた。学校の掲示では獣医の人を募集しているような書き方だったので、もっと一般の人も募集した方が良かった。
- 夏、冬等の休みには学生などが短期集中でやって来るが、それが過ぎれば人数が減り、活動が困難になるので、地域とのかかわりを深め地元中心の活動体制が必要になると思う。
- もっとたくさんの人々に現在の救護センターの状況、そしてそこでどのような仕事をして欲しいのか具体的に明記した文章を流して欲しいものです。
- 今後も何が起きるかわからない時代だから、日ごろネットワーク作りをしっかりと組織しておく必要があります。感謝状などより、現在の施設の犬猫達の情報が知りたいです。写真入り新聞を何故送ってくれないのですか。紙がもったいない。
- この様な災害の時だけでなく常に心に止めておくべき事だと思います。何かがあったからする、ではなく小さな事、例えば町の中で目の見えない人が.....等に心の配りを常に心においてないと出来ません。特に学生さんはいいい経験をしたと思います。これをキッカケにボランティアがしやすくなったのではないのでしょうか。学生のみならず一般の人をもっと考えなければならない。そしてその上に役所の方の理解が必要です。パピーウォーカーをしましてその事がよくわかります。盲人の方の本を読んでも日本はまだまだ.....と言っても言いすぎではないようです。日本人全員の心がそちらの方へ向かないとだめですね。
- 災害は今回の大地震に限らず大小予想もつ

かない形で突然やって来ますが、その何時やって来るかわからないからこそ普段から既に動ける状態にしておくことが大事です。今回思ったことは、いくら個人個人お手伝したくても、具体的にすぐ動ける所がないのが実情でした。やはりこれは各自治体がイニシアチブをとり各議員団体がすぐにそれに答えられる体制を作っておく事が今すぐでもやっていかなければならないことだと思います。

- もっともっと参加したいのですが、近い方の三田でも免許を持っていないので自分一人では行けないし、神戸へは時間が合わないし（散歩の時間とか）、暇が今のところないので。もっともっと勉強したいのですが、学校の方の勉強もしたいので（動物関係の）時間がないです。暇があれば毎日でも行くのですが。
- 活動開始半年でもう根を上げている獣医のみなさん、私たちが納得の出来る終わり方をして下さい。
- これからも色々なボランティアに参加したいが、来年から社会人となってしまい、そうもいかなくなってしまいます。「土日だけで参加して下さい!」とか「都合の良い日だけでいいです」とか、ボランティア通信等をしてパソコン通信や区役所等を利用して欲しい。
- 結局、主婦であり、パートタイマーである私はたった1週間でも時間をつくって現地入りすることは難しい。東京で身近に出来ることを見付けたい。別紙、友人が作っている新聞に体験記を書きました。よろしかったらお読み下さい。ボランティア活動を存続するためには行政、学校、職場ぐるみで協力していかなくっては行けないと思う。
- 半年間いろいろ勉強させて頂きいろんな獣医さんほか学生の方々と会えたことをうれ

しく思っています。(2度と起こって欲しくないけど)地震がなければ会えなかった人達ばかりです。一生友達であり続けたいと思います。本当にありがとうございました。

- 長期間活動に関わっている皆様には本当に頭が下がる思いです。ただ短期間のボランティアも心情的な面は同じだと思います。そういう人達を全て取り混ぜて、効率的に動かすことは必要ですし、そういう機能を持つ組織の下でならボランティア活動ももっと有意義なものになるのではないのでしょうか？(.....曹洞宗の後方支援事務と比較してしまうので余計にそういう気がします。)
- 人(動物)の世話をしたりするのが元から好きで、初めてボランティアに参加しました。あれ以来、違う自分を発見でき、自信を持てるようになり、帰りの新幹線の中では、これから自分がこの経験を生かして、どう成長していくかすごく楽しみで胸がわくわくしていました。又、何かあれば出来る限り協力させて頂きたいと思っています。このような経験を与えて下さって現地の先生、友人に感謝します。ありがとうございました。
- 今回はみんながまさかの地震によってやみくもな部分があったと思います。もっと、今度またあると見越して、大きなマニュアルが必要だと思います。
- もし良ければ交通費を少しでも出して欲しい。
- 私は実質4日間でしたが、以前から来ている人達が(獣医関係)手の汚れない仕事をしていて、自分たちの気に入った犬だけを散歩させたり、子犬だけを散歩している女の人が多い見かけられ、ボランティアで来ている同じ学生の仲間や半分訓練士みたいなのが幅をきかしてとてもずるいと思った。(その人達は一見仕事をしているよう

で実質はその回りの、だまっている人達が仕事をしている)ボランティア活動というのは一見マスコミに良く思われがちだが、中に一人心の良い指導者が必要だと思います。

- これまでも捨てられる犬猫に出来るだけ援助をしてきたが、個人の方では限界がありいつも悲しかった。生きてる動物の保護は限られていて、せめて道で死んでる犬猫は勤務に支障のないかぎりひらって手厚く届けてたりしていました。こんな気持ちで動物達に何か出来ることをしてやりたい熱意は家族中にあります。今後とも、会費という形ででも捨て猫犬の収容施設が作れるものなら協力していきたいと考えています。
- 挨拶の一つも出来ない人が本当の意味でボランティアを理解しているのか?このような人達に限って、特に横柄な態度が見受けられ残念であった。ボランティアの意味も含め、本当の動物愛護とは何なのかを今一度考えていただきたい。
- 今回の場合、東京にいて現地には行けないけれど、何かしたい人はたくさんいると思います。でも私自身も何をしたらよいかわからなかったり、方法を知らない人とかたくさんいます。普段海外のボランティア活動を参考にしたり、ボランティア活動自体を自分たちの出来ることとが、普通の人の意識を高めたいです。ボランティアで活動するのは全然偉いことではなく、当たり前のことなんですよ。
- 今回ボランティアというものに初めて参加して、とても自分にとって良い経験になったと思う。(こんなことを言っただけで現地の人に怒られてしまうかもしれませんが...)でも、震災の影というものがセンターの近くにはないということもあってか、ボランティアもなんだか2回目に行った時などサー

クルっぽい感じがして、ボランティアというものはこれでいいのかと考えてしまいました。最初の頃の方がみんな必至で取り組んでいたような気がします。もちろんこんな時だからこそ暗くならず、明るくやりましょうというのはわかりますが、少し浮かれ過ぎなのでは？という気もしました。ボランティア活動の難しさを知りました。あと、里親希望の人の多さに驚きました。保健所で捕らわれて殺された動物をみたことがあります。里親希望の人達にそういう施設があるということを知らせて欲しいと思います。そうすれば、放棄していく飼い主さんも（仕方ないかも知れませんが...）何か感じることもあるかも知れません。あまりに軽薄な感じの人もいたのが不思議でした。涙を出していたおばあさんもいたのに。そして、震災の跡をボランティアの人達に見せるのもいいと思います。

- 私などは住んでいる所が千葉なのでなかなか神戸へ出向く機会がないので、自分が活動を終えて帰ってから神戸の様子が気になって仕方ありません。もし出来たら活動に参加した人に月1回の情報紙（〇〇号の〇〇は里親に行った。ボランティア数現在〇〇人等。）を送って頂けるといいなと思っています。
- ただ現在の現地の様子や人数が足りなくて大変な時期1日2日人手が欲しいとき等がもしあるなら、そのような情報を聞くことが出来る窓口の様なものを作って欲しい。現地にTUTするのも忙しいかもしれないのでしづらいです。
- (1) 被災者は誰がボランティアか良くわからないようです。(2) ボランティアの事務所が欲しい(神戸) (3) ボランティアの活動中の車は国道2号線、43号線を自由に通行させて欲しいと思います。苦勞しまし

た。

- 最後の1匹になるまで確実に続けてほしい。そして最後の全ての犬猫がいなくなったら出来れば教えて頂けたらうれしい。
- 人間関係をしっかり保つ為にもしっかりした指導者、又は責任者が必要である。
- 自分の出来る範囲で活動したいので組織に属したり登録制になれば何か束縛されてしななければならないと少し重荷に感じると思っています。
- 今回神戸地震で幸いにも犬の生きる権利が得られ、大変うれしく思います。これを機会に不要犬が出ないように、出さないよう、犬達が安心して住める日本であって欲しいと思います。
- 今回の震災で動物救護のボランティアだけでたくさんの団体が活動しました。アーク、あいのかえる、JAWS、共同ネットワークetc....
PETを助けたいと思う心は皆同じなのに、どうして人間の思惑が入ると一つになれないのでしょうか。皆で協力すればもっとたくさんの子達を救えたのにと思うと残念です。特に国が支援していた北と三田の2団体はもう少しやわらかくなって欲しかったです。
- 私が参加したときには施設や受け入れの環境も整っていたが、発足当初や学生が集まりにくい4月から7月中旬は大変だろうと思う。今回は初めてのことで反省する部分も多かっただろうが、今後の為には資料を残し、受け継いでいかなければいけない。私個人としては将来出産、開業等するとなると泊りがけというわけにはいかないだろうが、獣医療に関わらず出来ることをしていきたいとは思っている。感謝状は必要ありません。
- 私は今回自己負担で参加しましたが、友人知人などは参加したい意志があっても、金銭的なこと、時間的なこと（仕事を休むと

収入に差し支える)などで、足踏みしてた人が何人かいました。逆に、お金を出すことは借しまなくても、体力的に無理な人で無念の不参加の人もいました。この辺のことがもう少しクリアになれば、もっともっと参加者が増えると思います。(若い人、学生等には少し援助金が出るとか)

- 今回の救護活動に関しては本当に頭の下がる思いでございます。人間も動物もそして虫も命の重さ大切さはすべて同じはず。心で思っただけでも救護の手を実際に差し伸べる事はとても難しい事です。「これからは動物好きの人々が気長に交代で続けていくことが重要ですね。」とおっしゃられた東京のボランティアの方の、遠くを見つめながらしみりと言われた言葉がとても心に残っております。なかなか思うように動けません、出来るかぎり活動は続けていくつもりです。どしどしセンターの方から要望をお伝え頂きたいと思っております。「明日、手を貸して欲しい。」と要請があれば家族みんな協力しあって1人でも多く協力できるようにしていくつもりです。頑張ってください。頑張りますよ！！
- 他にボランティア活動をされていることがありましたら教えて下さい。大したこともしてませんのに感謝状まで頂いて、こちらこそありがとうございました。

参加する前はさんざん、寝袋のザコ寝でとても寒いと聞いておりましたので、覚悟して行きましたが、2日目にはソファベッドがきて、しっかり暖房設備もあり、ご飯も豪華で本当にこんなにさせていただいているのかと思えました。犬達のあの目を見て、私はつくづく来てよかったと思えました。どこまで彼らの思いに答えられるかわかりませんでしたが、何かしたいという思いにかられました。悲しい出来事もありました

が、あの時参加させて頂いて本当に良かったです。

最後の1頭までこの活動を続けられるそうですので、また参加させて頂いた時にはよろしくお願ひいたします。

- 私の友達の中に「そんなボランティア(動物救護)があるのは知らなかった。参加したかったな。」という人が何人もいました。もっと、多くの人に、ボランティアの募集が目についたり、耳に入るようになってほしいのと思います。ボランティア初心者の方を温かく迎えてくれたゞ出市のボランティアの方と犬と猫達に感謝しています。早く、一匹一匹に温かい「おうち」が見付かりますように祈っています。たくさんの事を学びました。ありがとうございました。
- 今回の経験を元に、他地域との情報交換を密にして、素早い対応が出来るようになって、一匹でも多くの動物が救われる事を願っています。
- 行政Vetとして参加したが、技術、知識もなく参加したため何の役にもたなかったのが、はがゆかったと思う。もっと他の面でVetとして役立つ方向で貢献したい。
- 人間も大変なときに動物に時間を使うなんてと言う人もいましたが、今回の震災で動物たちに手を差し伸べる活動が行なわれたということは、私にとっては大変うれしい事でした。まだまだ放浪を続けている犬、避難所近辺でエサをもらう猫が多いということです。皆様のお力で一頭でも多く幸せになる犬猫が増えるのを希望する日々です。最後に皆様のご協力ご尽力に心より感謝申し上げます。
- 動物のためなら出来ることは何でもしてあげたいので、そういう活動があればどんどん参加したい。だからどんどん宣伝して欲しい。

- 日本人はいかに大勢集まろうとも自己主張すること少なく本当におとなしくいい人達だと思いました。そこにいい指導者がいれば出来ないことも出来るのではないかと。でも出来なくてもそのまま可能性十分で難しいところ。しかし、ボランティアはあくまでボランティアで（半年たってもなお、あの神戸の惨状を見ると悲しくなる。）参加して初めて現実を自分のものと出来るのですから、やはりもっと活動の幅を広げて行くべきだと思います。
- ボランティア活動を最小限にするために、今からでも犬猫への名札（チップ）を必ずさせて迷子犬猫を出さない防止が大事。現地でたくさんの人々に会い、動物によって心を救われた人々が思いのほかいた事に感動した。役割分担はしっかりして欲しい。なれ合いはやめて欲しい。
- みんな同じ思い（たぶん）でボランティアに来ている人だから、くだらんことでイザコザを起こさないようにして欲しい。回りまで不快になる。特に上層部でやられると、下にいる一般のボランティアはどうしていいかわからなくなる。それから来たくないやつは来なくていい。イザコザの原因になる。人では欲しくてもイザコザがあるだけで能率が下がる。だから獣医師会等で、無理に〇〇地区から何人、とかはあまりやって欲しくない。仕方ないけど。でも、今回はいろんな人と知りあえたり学んだり出来たので、とても有意義だった。吾いたことは悪いことが多いけど、本当に楽しく過ごせました。時間があればもっとそちら（神戸）にいたかったです。
- 三田の施設がまだ形も何も出来てなかったころ、20歳前後のボランティア達が経験も知識もないけど、夜遅くまでみんなで頭つきあわせて、三田を創造していこうと頑張っていた態度が印象に残ります。実際、ある程度ボランティアに任せてやっていた三田では犬猫の扱いから、施設の造築まで、そこから作り上げられたものほかなりあります。普段は常に誰かに手綱を握られ、無気力無感動といわれがちな若い人達をいざ解き放ったとき、そこには全国各地から何かの役に立ちたいとはるばるやってきた、活き活きとした意欲を感じました。これはボランティアに限らず、学校や会社などでの若い人達の在り方を考え直す、いい機会になったんではと思います。
- もっとたくさんの人に知ってもらえるように、広告にしる貼り紙にしる、やってみるべきだと思う。
- その口、その口で今一番何を先にしなければならぬかが変わり、獣医の先生のおっしゃることも人によって違うこともあった。マニュアルみたいなものを作ったら良いと思う。ボランティアの質を良くするために、何か研修とかあれば良いと思った。
- 事務所が閉まった後ボランティア達がTELかけ放題。私は個人で現地入りの際、障害保険に加入してから入る。（今回は天災付きで）犬の咬傷も全てOK！ボランティアの保険を希望者だけでも格安で加入するように出来ればよい。
- 多くの動物が救援を待っている状態のようで、短い間でしたがボランティアに参加させていただき、心を通わせる事が出来たので、自分に責任を持つためにも、又参加したいです。物資が思ったより多く来ているので、物に対する大切さが少し失われている様な印象を受けました。
- 雑費が少しかかりますが、殺菌力のある「薬用石鹸」、犬の毛並みを整える「毛取り袋」、雨のために良い「牛の骨型ゴム」「ほねっこ」など用意して、その表示と置

場所を決めて頂きたく思います。休みなく午前中3時間動くボランティア活動は体力をかなり使うので、昼休みにくつろげる「背もたれのある椅子」は必需品だと思います。是非揃えて下さい。

- 学校（中学、高校）などへ依頼するのも良いかと思えます。誰が行ってもすぐわかるように活動を明記しておくことでスムーズに動けると思えます。
- 時期によりボランティアの人数が多すぎたりするのは止むを得ない事とは思いますが、今回をふまえて、対策がたてられると思えます。
- まだたくさんの里親に出す犬猫がいると思えますが、いつの日か総括するような報告書を作成して「次」のために残すと良いと思う。犬のしつけや健康、発情等を考えながらになりますけど、7/26の朝日新聞の家庭欄（朝刊）にあったような「ドッグラン」はつくれませんか？ アニマルセラピーに出せるようにすれば良いのに、各地で犬のしつけ教室が気軽に受けられるようになって、人間ともっと良い関係になればとも思いますが、散歩が減ったりしていると聞いていますが、人出があるときは健康状態をつかむためにも必要なのでは。地方の獣医さんの事とか、他から来た獣医さん、その他いろいろな組織の人が一つの場で活動するうえで問題も多いと想像します。御自身も被災されたりした方々も良くなって行くように願います。それがなければ続かない活動でしょう。そのために皆意見を出しあっていくのが必要だと思います。「感謝状」もったいない、無駄だなと思いました。
- 震災という不幸な出来事を通して、若者たちの行動力、優しさに触れられ、感動しました。特に犬猫の世話は汚い作業が多く、それを嫌な顔一つせず、黙々と働いている

姿には頭が下がる思いです。

- 一匹でも多くの動物達が幸せに暮らせるように頑張りたいと思います。動物はしゃべれません。だから、人間が動物達の心をわかってあげて欲しい。愛情を注いであげて欲しい。地震で辛い目にあったのは動物達も一緒だから。
- 私の活動期間は2月から4月という短い間でしたが、センターの運営方法はかなりの進歩があったと思います。今でも悪いところはどんどん改善されている事だろうと思われれます。地震直後だけボランティアをして、自分の生活が戻れば知らんぷりという最悪の結果となってしまい、大変残念です。出来ることなら来年でも一年でも続けたい。又、このボランティア活動によって、年齢や職業さらに地域という壁を越えて、いろんな人と出会うことが出来ました。犬との触れ合いは元より、ボランティアの在り方についても学ぶ所は大きく、この2カ月は忘れることの出来ない期間になるでしょう。そして短い間、それも通いのボランティアしか出来なかった私にこんな素晴らしい感謝状を頂き、大変うれしく思います。本当に何の役にもたてませんでした。皆さんの勉強をさせていただき、こちらの方が感謝したいくらいです。センターにはまだまだ多くの犬や猫が救護されているようですね。最後の一頭が居なくなるまでには、先は長いと思いますが、頑張ってください。私も又、時間があればボランティア活動に参加したいと思います。
- 今回参加して思ったことは、こんな災害の時にいうべきかどうか分かりませんが、自分が楽しんで出来ることが一番だと思います。現地に入るまでは不安や緊張で重い気持ちでしたが、その気持ちを忘れてしまうくらい楽しく仕事が出来た神戸のセンター

は本当に素晴らしいと思いました。

- 自分の仕事（トリマー）を生かしたボランティアをしたい。そのための設備などを揃えて頂ければ自分の生きがいにもなるし、もう少しスムーズに動くのではないかと思います。
- 現地に泊まり込んで、主体になってされている方々には頭が下がります。里親探しに関してはもっとTV等の放送回数を増やす等して、ボランティア活動に参加できないが、ボランティアで里親になってくれる気持ちの方にもっと知らせたりして欲しい。
- 人間の方も動物の方もボランティアさんに頑張ってもらいたいと思います。特に動物は自分自身だけでは生きて行くのも限界があるので、早く全ての動物が里親に引き取られる事を望みます。
- 今回で特に感じた事だが、お預りの犬猫のオーナーが、会いに来ることがほとんどない。やはりせめて一カ月に一度は来るようにすべきだと思う。その理由の一つとしては、いざ手元に返すときにスムーズにお渡ししにくくなる。センターの方で犬の甘え（G.レトリバー兄弟の散歩について）を許していたのを見て特にそう思った。
- ボランティアをする人が皆よい気持ちで活動でき、良い思い出に出来るようになればいいと思う。
- Ⅲ-②の続きのようになりますが、一度例かを決めてそれを続けていく体制は本当に素晴らしい事だと思います。猫舎やICU等は、食事内容から消毒薬の配合からこと細かに決められていて入ってもすぐ対応できる状況でした。しかし、初めての試みの中、それを決めた方々の苦勞はかなりのものだったと思います。ですが、やっていく中で変えていくこと、より良い方向へ変更していきながら、そのより良いものを伝えていけ

るとももっともっと良くなっていくでしょう。しかし、人が入れ代わり立ちかわり変わる中では、このような事は非常に勝手に無責任な意見なのかも知れません。何も自分では居えない動物相手ですから人よりもずっとずっと大変で、気を使うことも多いこととご推察致します。かなり難しい課題ですが動物たちの為により良い体制が出来ることを願っています。また是非参加させて下さい。

- 意思はあるが、どうしたらいいかわからない人が多い。どういう形で参加できるか、どういう事が役だつのか、現地の状況（洗濯、食事等）等の情報をTV、新聞等で知らせて欲しい。
- 今回は知人からの情報で動けましたが、災難の場合、初期に現地入りした人の情報を、すぐデータベースにして必要な物資、人数等が全国のどこから誰でもアクセスすれば手に入るように出来るとよい。人に指示された事しか出来ないようなボランティアが多すぎる。活動のノウハウを馬場先生等にルポしてもらって、本でも出して頂くと、今後多くの方が予備知識を持って参加出来る。NHKでもルポルタージュ番組でも作ってくれないかしらん。
- ボランティア活動をしたくても、大分勇気がいります。もっと気軽に参加できたらボランティア人口は増える。神戸の動物達を各地から助けに来て下さってありがとうございました。
- 援助金をもっと有効に使うべきでは（援助物資も含めて）。
- ボランティアの希望をTelで連絡したが、全然連絡が帰ってこなかったりするので、そこから辺をもっとスムーズに処理できればいい（早く連絡をとる）と思う。結局私は違うところ（学校）で再び希望の旨を言い参

加できた。私は学校であったのでよかったが、恐らく多くの方がボランティアの参加を希望していたが本当に参加できなかったであろう。

- 神戸にいたとき、せっかく来ていただいたボランティアの方に参加を断り、他日に来た獣医の学生には参加してもらっていた様ですが、これには不満が残ります。

獣医学生が言うのも何ですが、たかが学生です。何ほどのつもりでしょうか？このような今後のためのアンケート活動は大変ご苦労なことと思いますが、どうか頑張ってください。そして、この震災の経験が将来に活かされますよう祈っています。

- 質問とは特に関係ありませんが、生意気なようですが、感謝状を出すお金と手間を他に回したほうが良かったのではないのでしょうか。本当にうれしく思いましたが、少し引っ掛かりました。
- システム化をはかって活動するほうが、だんぜん良いと思う。もちろん自主的に活動しなくてはならないけれど、日本獣医師会などから募集して派遣されたものとしては、現場でもシステム化を望みます。緊急な事ということをして考えれば、当たり前のような気もします。何分、数日しかいませんでしたが、直感的に感じた事であります。
- 最後の一匹がもらえるまで、何らかの形で情報を流して下さい。
- 遠方や回数の多い人の交通費に何らかの配慮があれば参加人数や回数が多くなるかも知れない。
- 今後又このような災害が起こったら、またたくさんのボランティアの人達が集まると思う。せっかく人がたくさんいるのだから、うまいこと動かせる人が必要になってくると思うので、今回経験した人達同士でいろいろ話し合っ、次回はずっともっとうま

く出来るように頑張ってください。ボランティアの「力」は必要だし、すごいと思います。

- 今回ボランティアに参加して、色々な事を学んだ。少し嫌なうわさを聞いたからといって参加を途中放棄したが、後でよく考えてみると自分は犬達の為のボランティアをしているのだから、もっと動物の気持ちにたって考えてあげるべきだったと思った。動物を助けてあげたいという気持ちがそんなことで弱気になった自分を今考えれば恥ずかしく思う。今後何か機会があれば出来るだけ参加したい。ボランティア活動をずっと続けている人達を尊敬します。これからも頑張ってください。
- 短い期間だけの参加で、現在は通常の生活に戻っていますが、常に動物達、兵庫の人達の今後の気がなっています。又、力になれる事があれば少しでも役に立ちたいと思っています。動物達を最後まで救護していくためにも、参加した私たちが、他の人達に呼びかけるなど、ボランティアの参加後でも活動をしていくべきだと思いました。今、ボランティア活動をなさっている方、頑張ってください。
- 何度も書きましたが、先頭に立つ人が全てを理解できていないと他の人もわからないし、他のボランティアに来ている人もわからないと思う。私がいったときはまだきちんとした管理が出来ていなかったのかも知れないけど、今になってもそのことが一番強く印象に残っています。何も出来なかったけど、一番頼れたのはやはり何度も来られているボランティアの方でした。でもその方がいない日はどうなってるんだろう？と思い少し心配でした。もっと初めて参加する人にも分かりやすくする事はいくらでもあったと思います。いくらボランティアだからといっても、適当な対応では相手の

方にも失礼にあたると思いますし、簡単な仕事だったとしても一人一人が違うことを言っていたのでは何の為のボランティアかわからなくなると思いました。

大変失礼な事を書かせていただきましたが、私の素直な感想を書かせて頂きました。今後もボランティア活動をされるということですが、お体に気を付けて下さい。一日も早く全て動物達に新しい家庭が出来ることを祈っております。

- 多くの全国の勤務獣医師（公務員）を利用すべきと考えます。
- 動物に対してのケアが優先なので仕方がないですけども、もう少し人に対して専門的に対応出来る人がいたほうがスムーズにいくはずではないでしょうか。私は接客業なのでその点で活動させていただきましたが、また何かあれば似たようなところで役立たせて頂くつもりです。でも全体としてはとても楽しかったし、現在も頑張ってる方々のいるところに願の下がる思いです。
- もっときちんとした指揮系統を持つべきだ。有給の人をもっと居ていいのではないかな？ボランティアで全く素人の人と専門分分野の人をもっとうまく組み合わせて技術の伝達のような事があってもいいのではないかな。
- 私にとってのボランティアは自分自身の気持ち（他人、動物を思いやるという気持ち）が大切であって、感謝状をもらったり渡すこと自体まちがって居るような気がしました。今の日本の社会自体が、ボランティアとはどういうものか、ボランティアの言葉の意味を少し勘違いしてるような、そんな錯覚にとらわれてしまいました。
- 登録制にした場合、すぐに現地に行けるようにシステムを作ってはどうか？1日でも行きたい方々がたくさん居ると思う。今も

長期でないとだめか？

- こんな大変な災害は初めてなので、もう少し円滑に作業が進む方法（リーダーやマニュアル）はないか？
- 若い子達の中には、ウンチまみれになって犬舎掃除をしている子もいれば、涼しいテントの中でおしゃべりしながら食器洗いをしている子もいる。悲しいのは、いつも楽なほうにまわる子というのは決して犬舎のウンチ掃除はしないということです。もう少しはっきりと指導してくれる人がいればと思う。「何をしに来ているのか」をはっきりと自覚して欲しい。また、泊りの子達の中には未成年者なのにタバコを吸う子が多く少し気になった。
- ボランティアは早さと長さが一番なので、地元の我々が長く頑張ろうと思う。
- 授業などでは味わえない良い経験をさせてもらいました。
- とても行って良かったと思いますが、獣医学士の待遇と一般の違いはひどいものでした。わざわざネームプレートに「獣医学生」なんて書かせる必要はなかったと思います。2年や3年でそんなに動物の扱いに違いが出るとは思えません。獣医になりたかった私にとってそれが一番嫌でした。
- 高校生なので、高校生や大学生を対象にした動物に関するボランティアグループに入りたい（地元で）。そのほうが济け込みやすいし、楽しく参加できるから紹介して欲しい。
- 家が遠いので交通費を支給して欲しい。嫌な仕事を進んでする人が少ないので、当番性にして欲しかった。
- 長い間ボランティア活動をしていると、やり方が雑になって行きがちだが、やり始めた時の気持ちを忘れずに、ずっと活動していくことが大切だと思う。動物を愛する人

- のみが活動して欲しい。
- ペットも家族の一員であるという認識を人々がもっと強く思えるように、今回のボランティアを通じて（マスコミを利用して）訴えたいと思います。
 - ボランティアに来た期間の長い短いに関係なく、少しでも今回の事に関わった人達全員に、この救護センターがどのようにして最後（この先、終了する時が来たら）センターとしての働きを終わらせていったのか、ハガキ等でもいいので教えて欲しい。
 - 初めてボランティアに来た人にまず、ひと通り内容を説明する必要があると思う。でないと、ご飯をどこでどんなふう食べていいのかわからない。
 - ボランティアの受付を災害があったらすぐ開設して欲しい。今回、多くのボランティアの若人を見て大変うれしく思いました。
 - 今は何をすべきか考えることも大変ですが、災害において今後どうすれば動物達を守ることが出来るのかを考えられるボランティア活動が出来たらいいと思います。
 - 事務処理と動物管理と施設管理（人間の食事含）はそれぞれ独立させてボランティアの募集、活動を行ってはいかがでしょうか。スタッフジャンパーや感謝状も良いと思いますが、経費がかさむのではないのでしょうか。ご一考を。
 - もっともっと精神面でのケアに力を入れて欲しいと思う。犬舎の中にいる時は、その子のベストの状態であるのが本当なのに、そうじゃないために、里親がなかなかつかなかったり、里親さんに引き取られた後で、うるさすぎるなどといったトラブルが出てきたりしている。私たちが皆で協力して、1頭でも多くの子達の心のケアをして、少しづつでも元気で明るくなって欲しいと思う。
 - 日本は外国（特にアメリカ）の様にボランティアに参加する人が少ないことや、ボランティアをしても何をしていったらよいかわからない人等が多いので、ボランティアの呼びかけや活動内容を何かに明記し、提示すること等をして、もっと有効にボランティアを利用して頂きたい。
 - 各都道府県に数名は動物救護ボランティアを置いておいて、いつまたどこで災害が起き、動物救護が必要な時、素早く活動出来る体制であった方がいいと思う。それは福祉協会も愛護協会も関係なく野生獣医師会のボランティアの様に待機しておけばいいと思う。ボランティア保険ももっと公になればと思う。皆のボランティア意識がもっと生活に近くなれば良いと思う。
 - 有資格者に対するボランティアについては状況により適切な年齢層を決めても良いと思う。
 - 小学校等のボランティアでは、専門職（医師、看護婦）以外のボランティアの余剰が目だった。マンパワーとして働きたい人が、自分の特性を生かして働けるようなシステムがあれば多くの普通の人々の活動の場が広がると思う。
 - これからも里親活動したいのですが、今の本当の状況を知りたい。まだ里親を希望している人がいるので、必要があれば再び三田市のセンターに出掛けたい。
 - ボランティアとは何かを考えたり、話し合ったり、勉強したりする場が欲しい。
 - なるべく地元の人々が活動に参加しやすく、また多く来てもらえるのがいい。